

第2章 結果の概要

*調査結果に掲載している数値は小数点2位以下を四捨五入しているため、
内訳合計と総数とが一致しない場合があります。

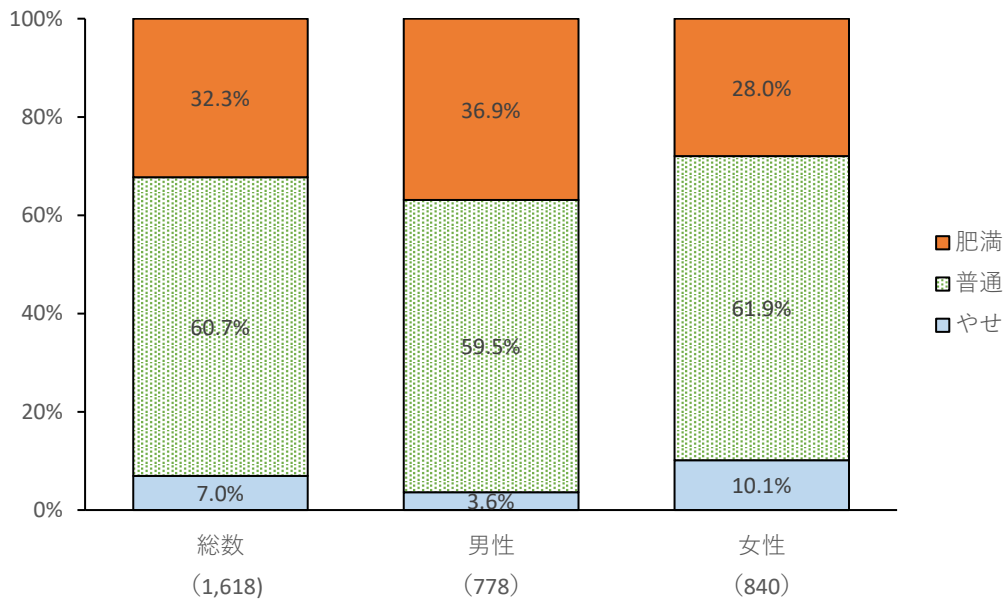
第1 県民健康調査の概要

1 体格（BMI）の状況

肥満度（BMI25以上）の割合は、男性36.9%、女性28.0%である。
 年齢階級別にみると、男性は50～60歳代、女性は40、60歳代で高い。
 男性は30歳代で、女性は40歳代で大幅に増加する。

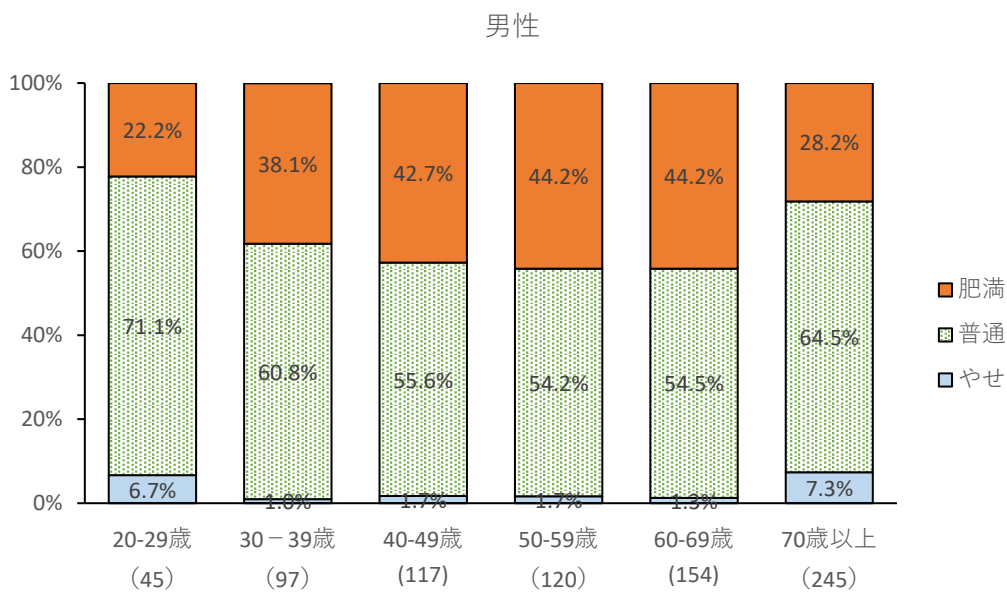
（1）体格（BMI）の状況（20歳以上）

図1-① BMIの区分による肥満・普通・やせの者の割合（性別）

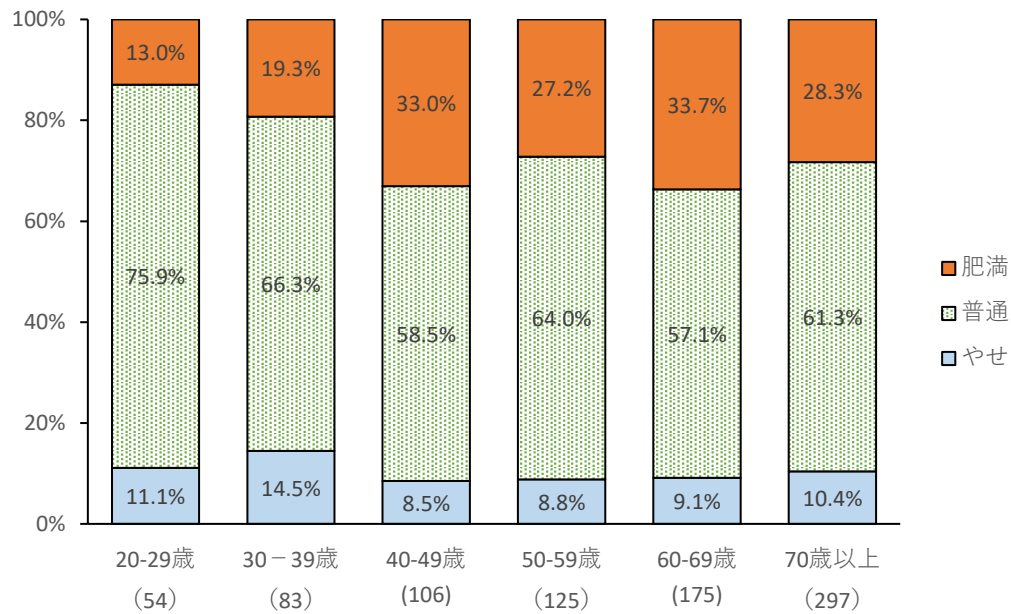


（2）体格（BMI）の状況（性・年齢階級別）

図1-② BMIの区分による肥満・普通・やせの者の割合（性・年齢階級別）



女性



BMI (Body Mass Index) とは？

体重 [kg] / (身長 [m] × 身長 [m]) を用いて判断するもの

(判定) 低体重 (やせ) : 18.5未満 普通 : 18.5以上25.0未満 肥満 : 25.0以上

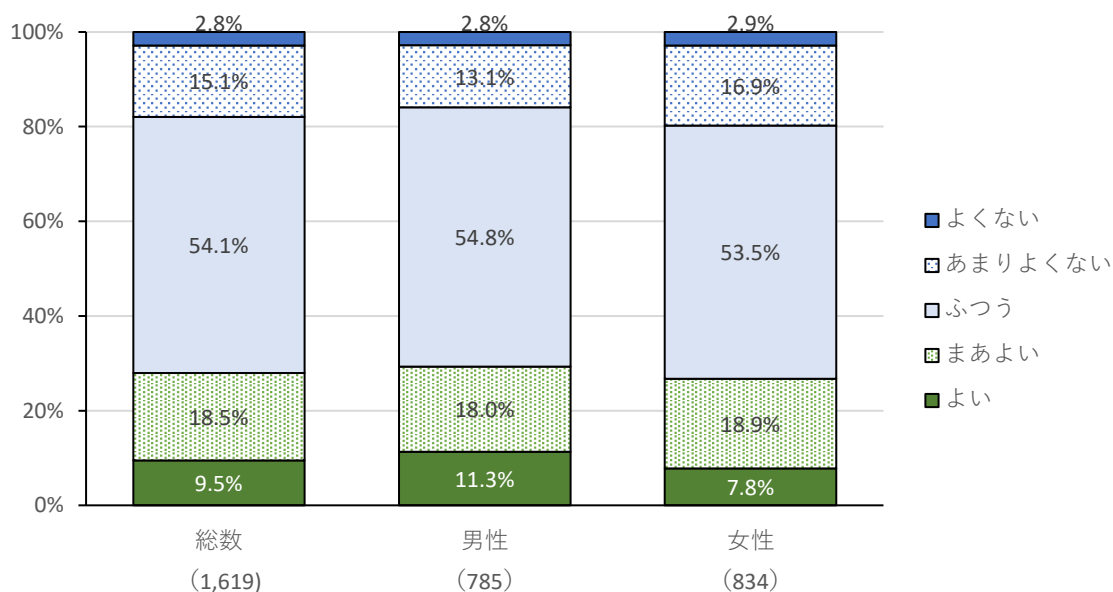
2 健康の状況（主観的健康観）

この1か月間の自分の健康状態（主観的健康観）について、男女とも「ふつう」と答えた者の割合が最も高く、男性54.8%、女性53.5%である。

年齢階級別にみると、年代があがるとともに、「よい」「まあよい」と答えた者の割合は低くなる。

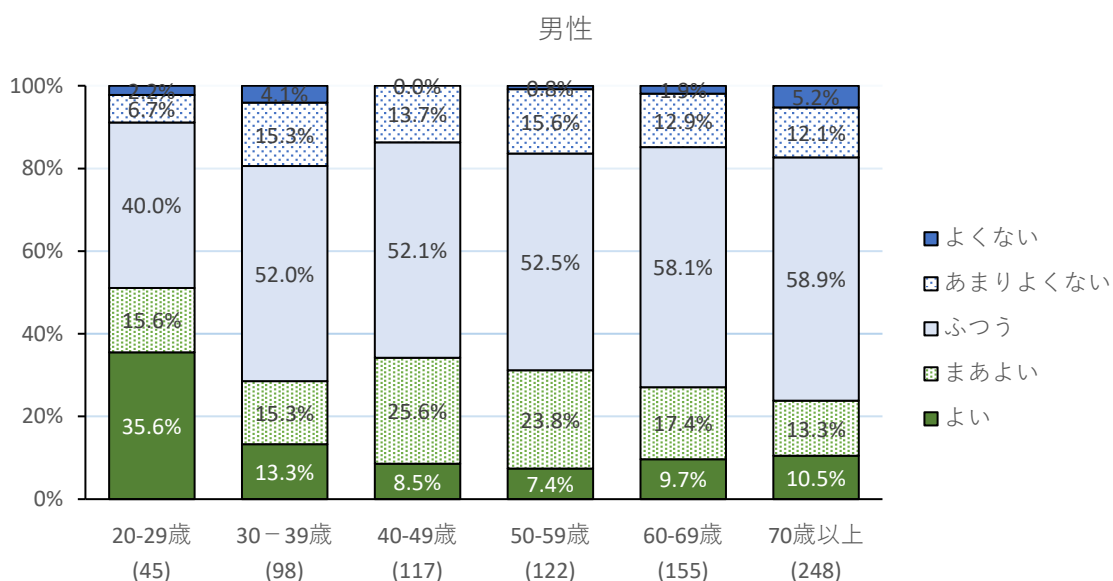
(1) 主観的健康観の状況（20歳以上）

図2-① 主観的健康観の割合（性別）

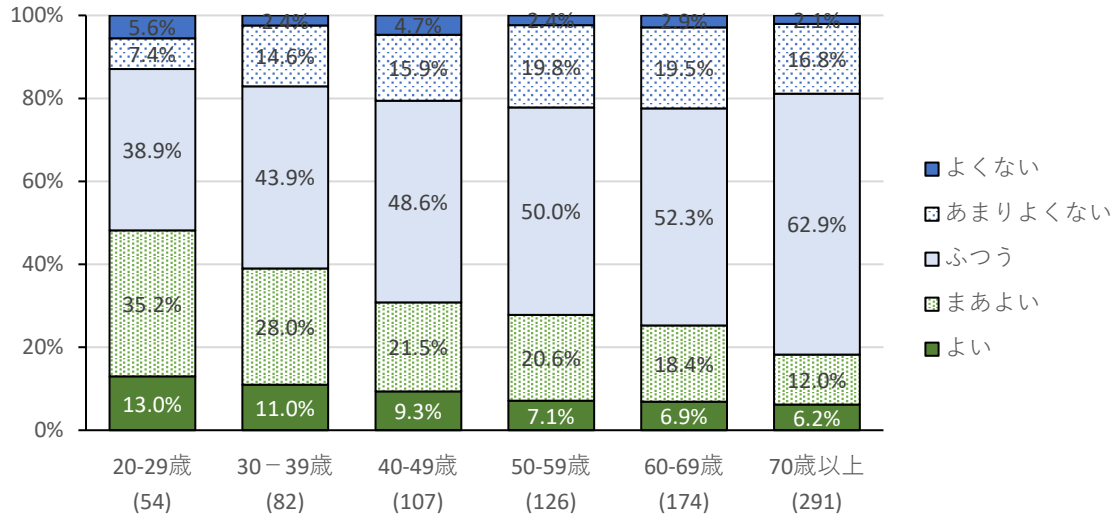


(2) 主観的健康観の状況（性・年齢階級別）

図2-② 主観的健康観の割合（性・年齢階級別）



女性

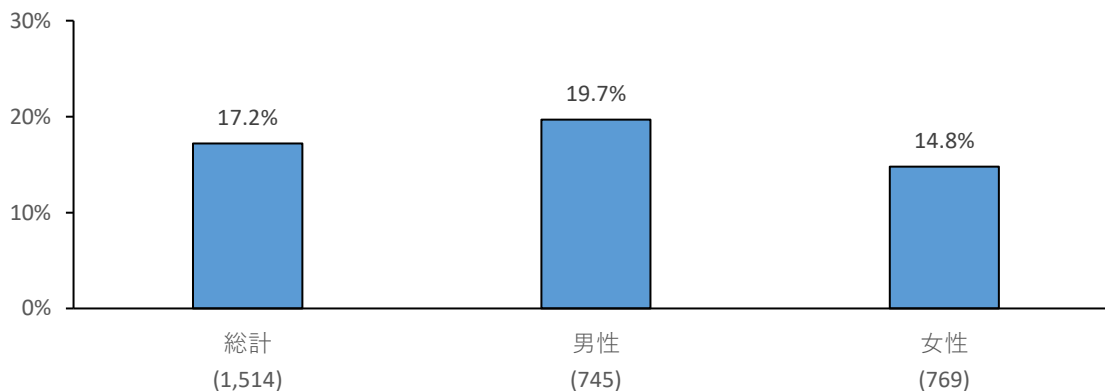


3 運動習慣の状況

運動習慣のある者の割合は、男性19.7%、女性14.8%である。
 年齢階級別にみると、男性は40～60歳代、女性は30～50歳代で低い。

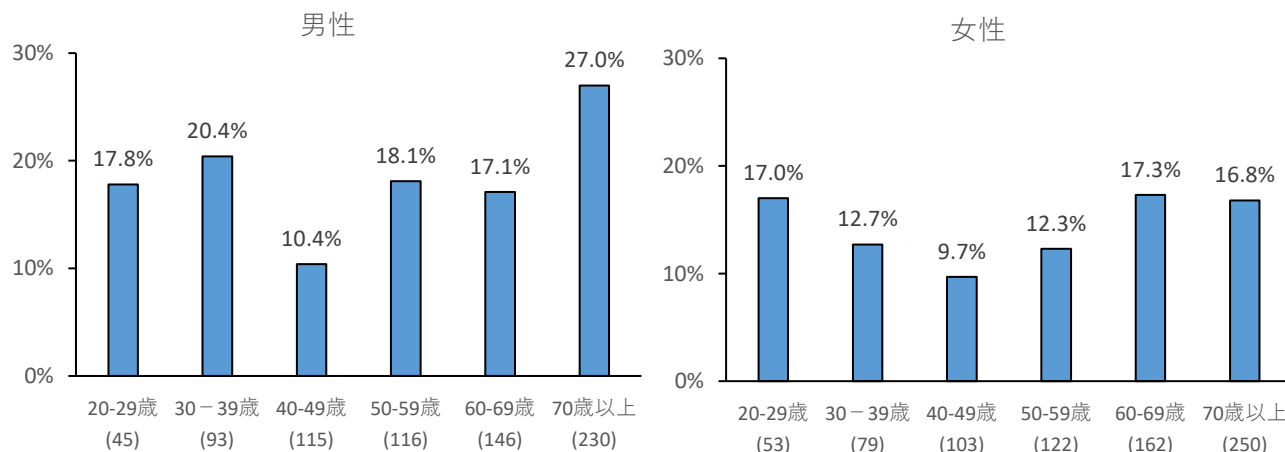
(1) 運動習慣者の状況（20歳以上）

図3-① 運動習慣者の割合（性別）



(2) 運動習慣者の状況（性・年齢階級別）

図3-② 運動習慣者の割合（性・年齢階級別）



「運動習慣のある者」とは、1回30分以上の運動を週2回以上実施し、1年以上継続している者で、「運動習慣」の集計方法は、下記のとおり平成28年国民健康・栄養調査に準じて行った。

※運動習慣に関する母数について

医師等から運動を禁止されていない（問17で「2.いいえ」）と回答し、かつ1週間の運動日数、平均運動時間、継続年数（問18,19,20,21）のすべてに回答している者を集計対象とした。

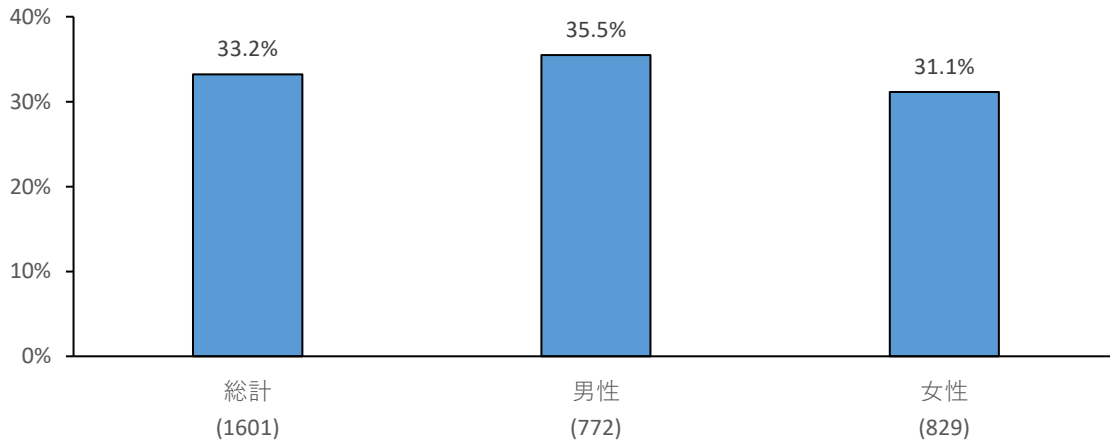
※運動習慣有（1回30分以上の運動を週2回以上実施し、1年以上継続している者）について

医師等から運動を禁止されていない（問17で「2.いいえ」）と回答し、かつ1週間に1日以上運動をしている（問19で1以上）と回答し、かつ1週間に2日以上運動している（問19で2以上）と回答し、かつ1回30分以上（問20で30分以上）と回答し、かつ1年以上継続している（問21で「2.1年以上」）と回答している者

1日の歩数を知っている者の割合は、男性35.5%、女性31.1%である。
 年齢階級別にみると、男性は20～40歳代、女性は30,50歳代で低い。

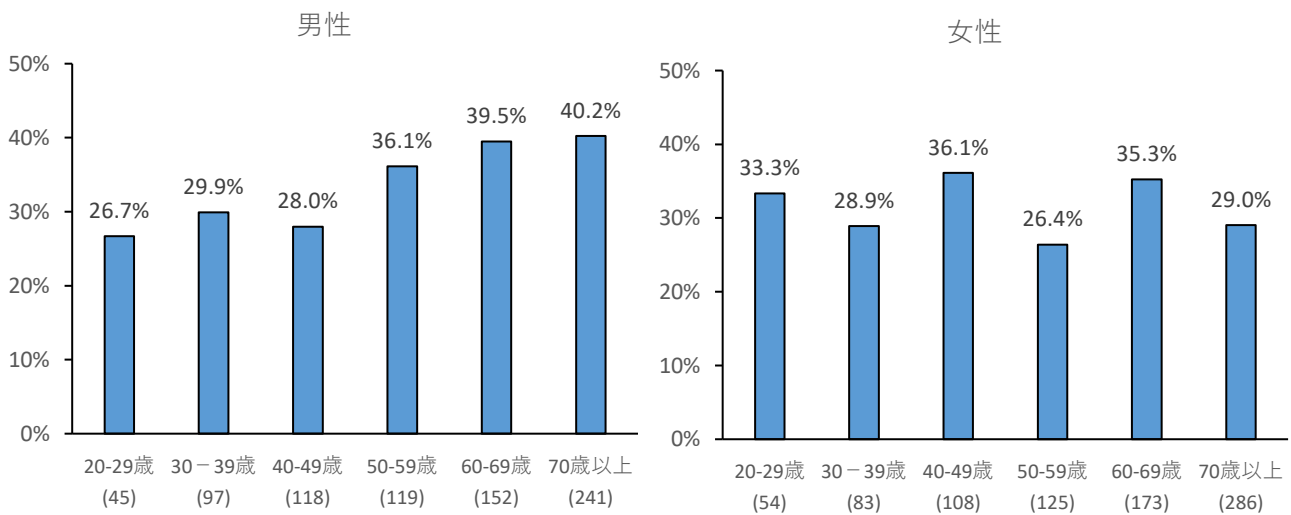
(3) 1日の歩数の認知状況 (20歳以上)

図3-③ 1日の歩数を知っている者の割合 (性別)



(4) 1日の歩数の認知状況 (性・年齢階級別)

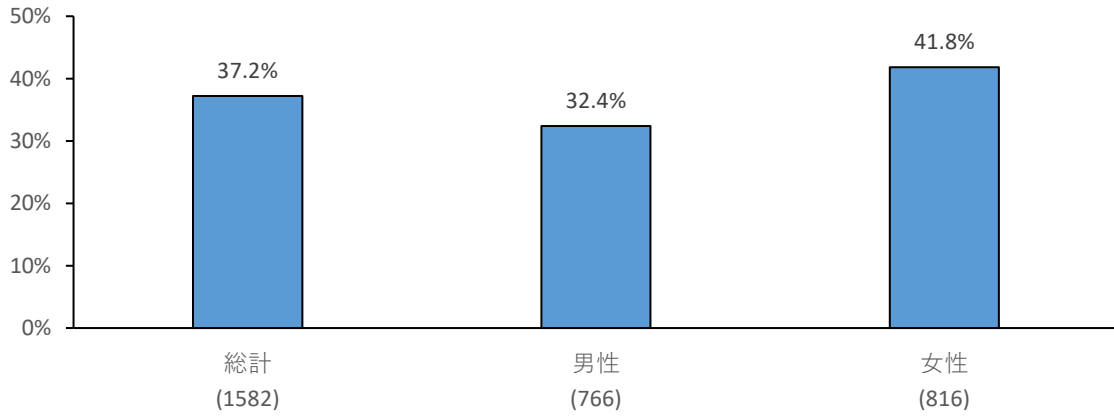
図3-④ 1日の歩数を知っている者の割合 (性・年齢階級別)



自分の歩数を増やすように意識している者の割合は、男性32.4%、女性41.8%である。
 年齢階級別にみると、男性は20～40歳代で低く、女性は30歳代で最も低い。

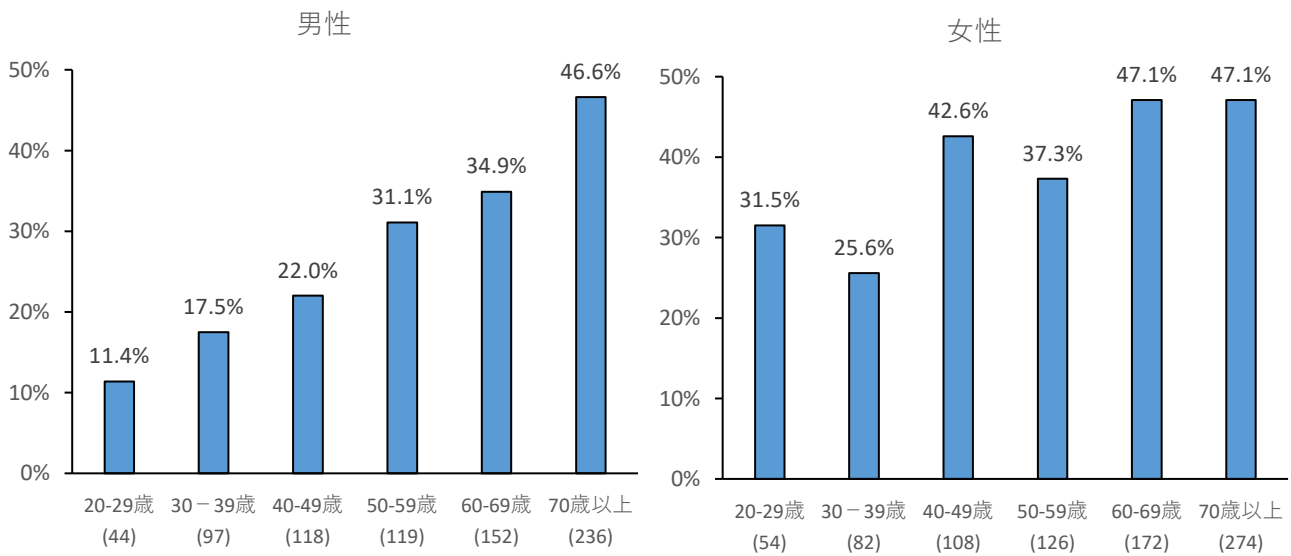
(5) 歩数増加への意識の状況 (20歳以上)

図3-⑤ 1日の歩数を増やすように意識している者の割合 (性別)



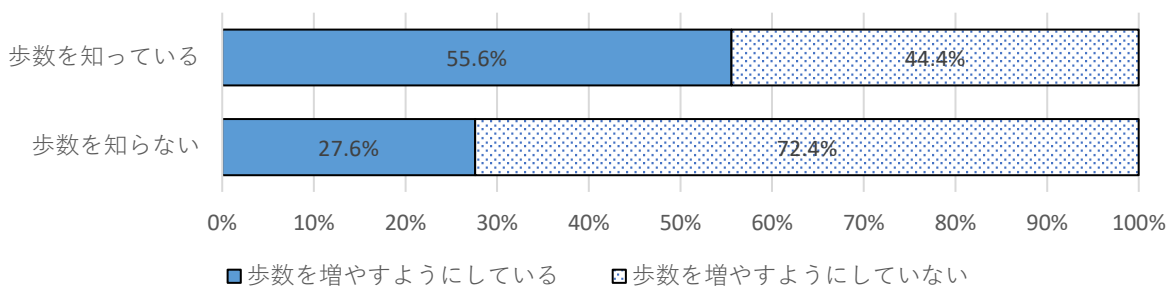
(6) 歩数増加への意識の状況 (性・年齢階級別)

図3-⑥ 1日の歩数を増やすように意識している者の割合 (性・年齢階級別)



(7) 歩数の認知状況と歩数増加への意識の状況

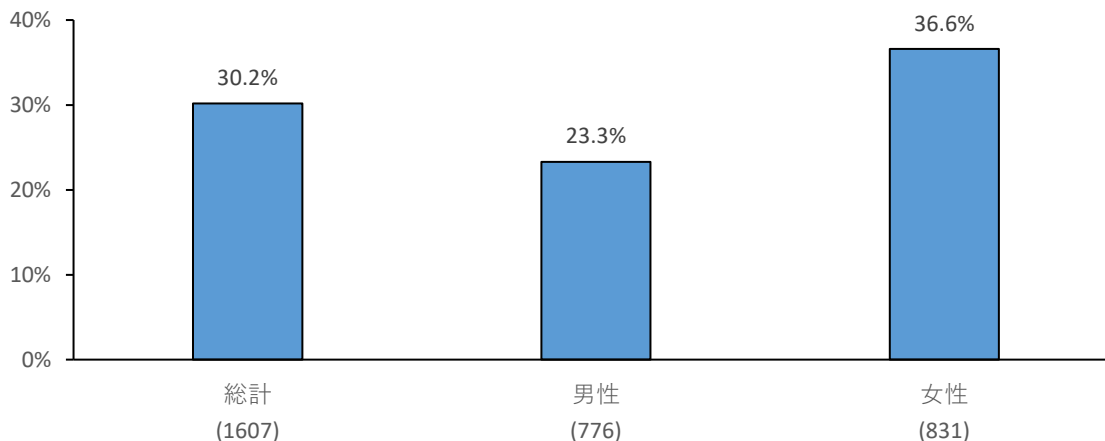
図3-⑦ 1日の歩数の認知状況と歩数増加への意識の状況



ロコモティブシンドロームを「内容まで知っている」「言葉を聞いたことがある」と回答した者の割合は、男性23.3%、女性36.6%であり、女性の割合が高い。

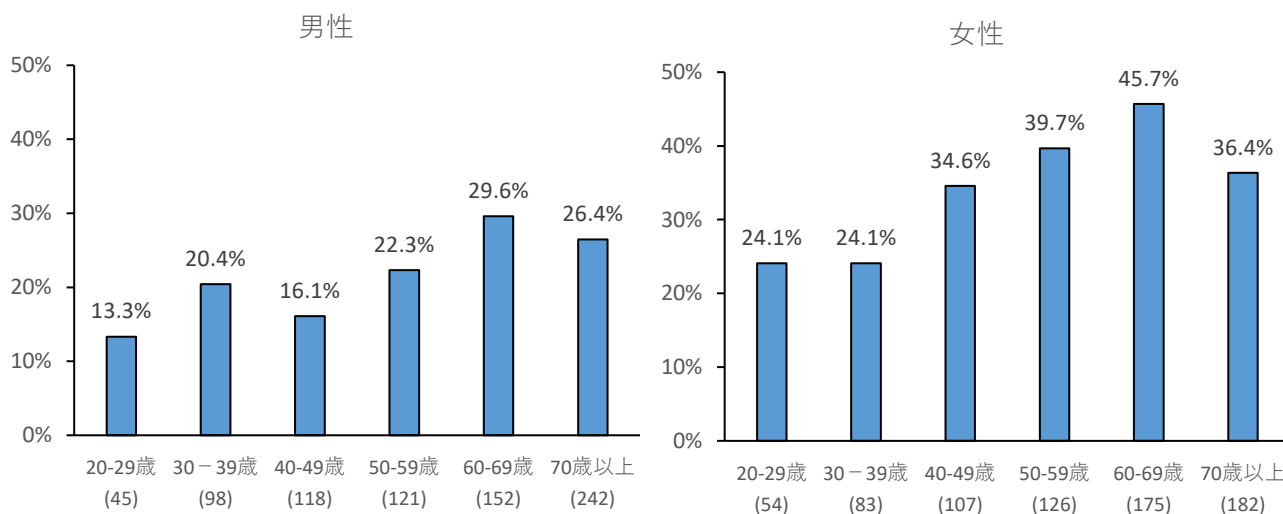
(8) ロコモティブシンドロームの認知状況 (20歳以上)

図3-⑧ ロコモティブシンドロームを「内容まで知っている」「言葉を聞いたことがある」と回答した者の割合 (性別)



(9) ロコモティブシンドロームの認知状況 (性・年齢階級別)

図3-⑨ ロコモティブシンドロームを「内容まで知っている」「言葉を聞いたことがある」と回答した者の割合 (性・年齢階級別)



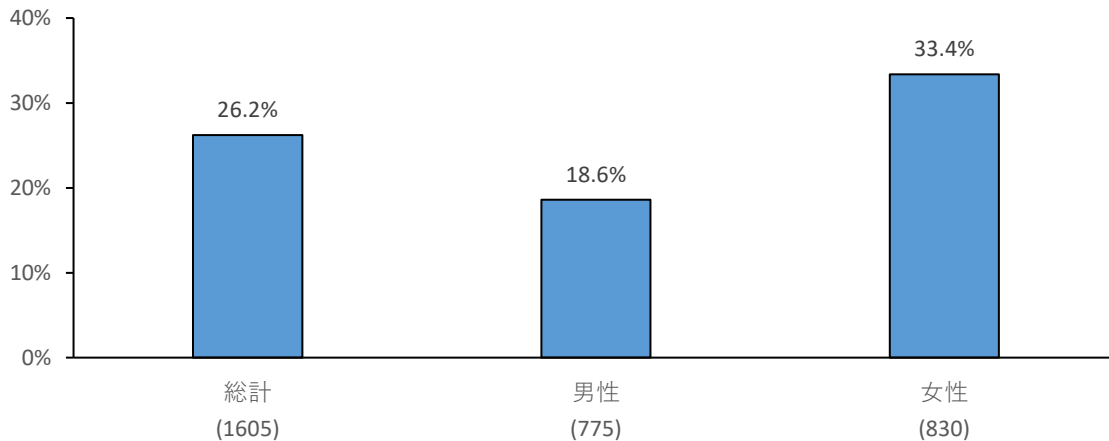
ロコモティブシンドロームとは？

ロコモティブシンドローム（運動器症候群）とは、運動器の障害のために自立度が低下し、介護が必要となる危険性の高い状態。

フレイルを「内容まで知っている」「言葉を聞いたことがある」と回答した者の割合は、男性18.6%、女性33.4%であり、女性の割合が高い。

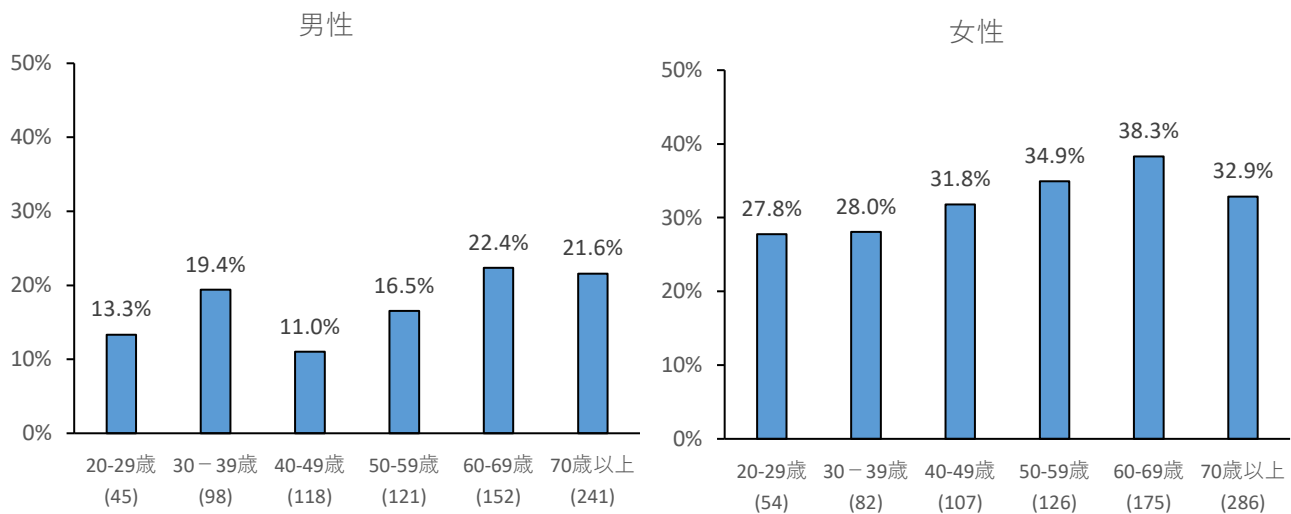
(10) フレイルの認知状況（20歳以上）

図3-⑩ フレイルを「内容まで知っている」「言葉を聞いたことがある」と回答した者の割合（性別）



(11) フレイルの認知状況（性・年齢階級別）

図3-⑪ フレイルを「内容まで知っている」「言葉を聞いたことがある」と回答した者の割合（性・年齢階級別）



フレイルとは？

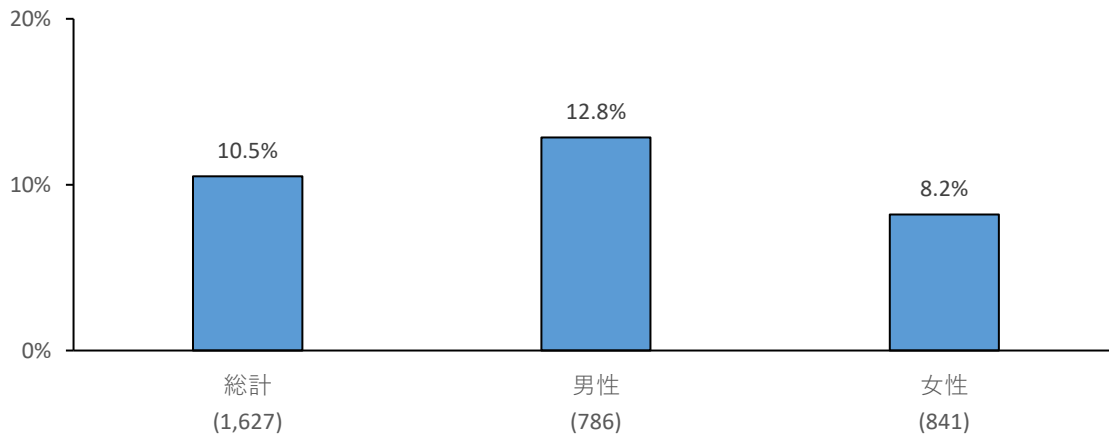
加齢に伴い、体や心のはたらき、社会的なつながりが弱くなった状態のこと。そのまま放置していると、要介護状態になる可能性がある。

4 食生活に関する状況

朝食欠食者（朝食を「週4～5日食べない」「ほとんど食べない」と回答した者）の割合は、男性12.8%、女性8.2%であり、男性の割合が高い。
 年齢階級別にみると、男性は50歳代で最も高く、女性は20～30歳代で高い。

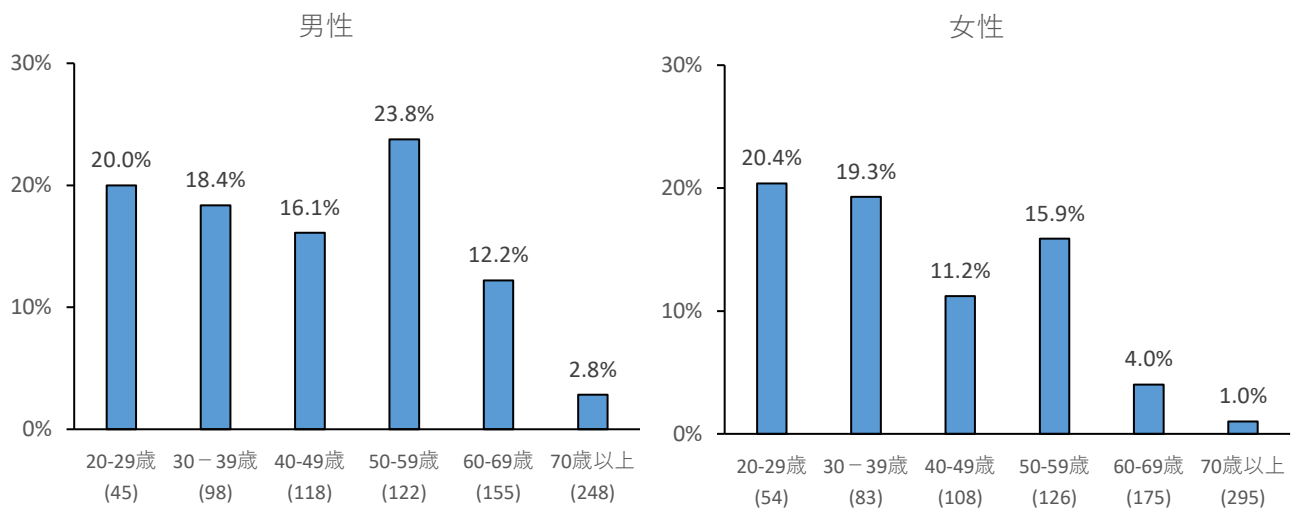
(1) 朝食欠食者の状況（20歳以上）

図4-① 朝食欠食者の割合（性別）



(2) 朝食欠食者の状況（性・年齢階級別）

図4-② 朝食欠食者の割合（性・年齢階級別）

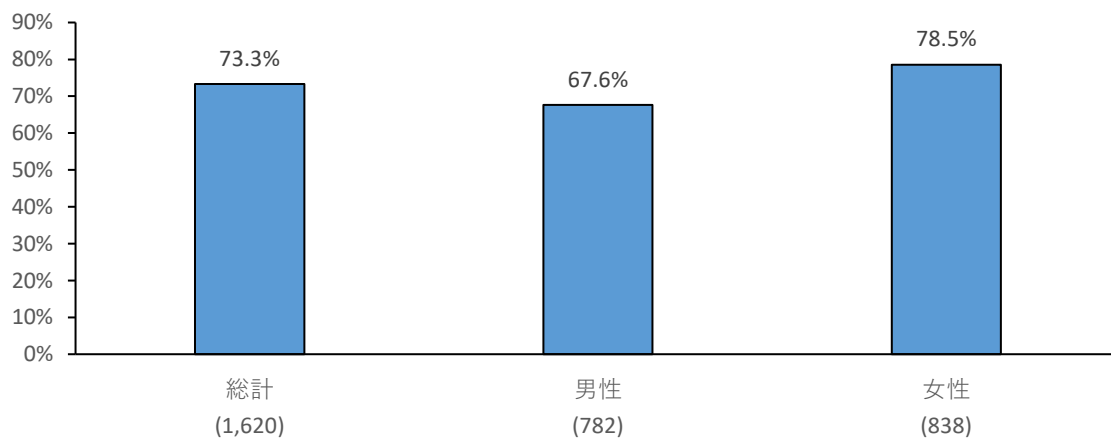


主食・主菜・副菜をそろえて食べるようにしている者の割合は、男性67.6%、女性78.5%であり、男性の割合が低い。

年齢階級別にみると、男性は30歳代で、女性は20歳代で最も低い。

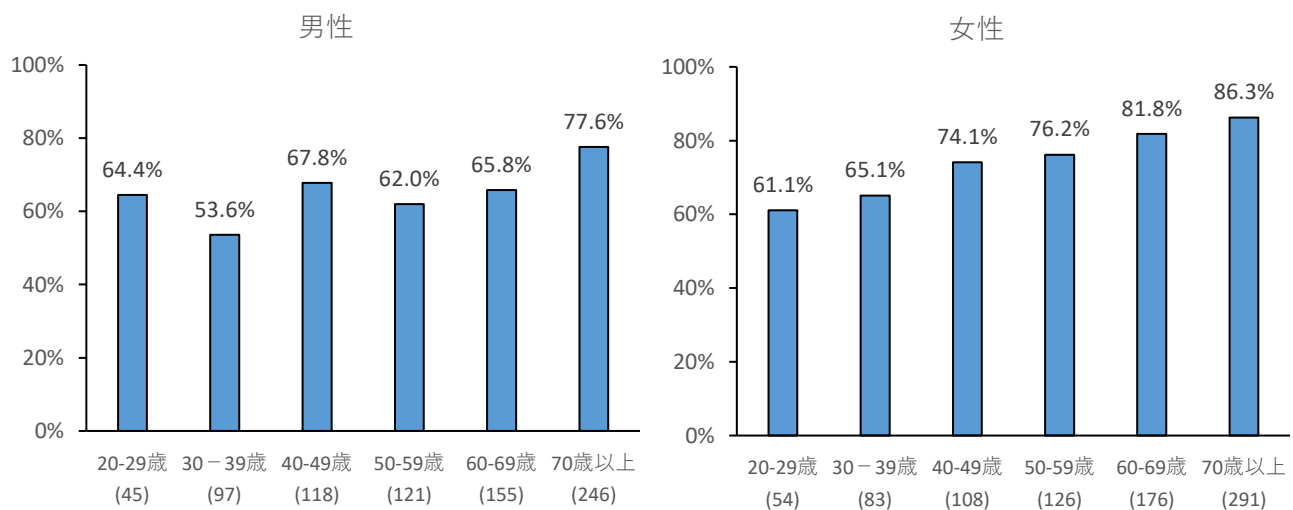
(3) 主食・主菜・副菜をそろえて食べるようにしている者の状況 (20歳以上)

図4-③ 主食・主菜・副菜をそろえて食べるようにしている者の割合 (性別)



(4) 主食・主菜・副菜をそろえて食べるようにしている者の状況 (性・年齢階級別)

図4-④ 主食・主菜・副菜をそろえて食べるようにしている者の割合 (性・年齢階級別)

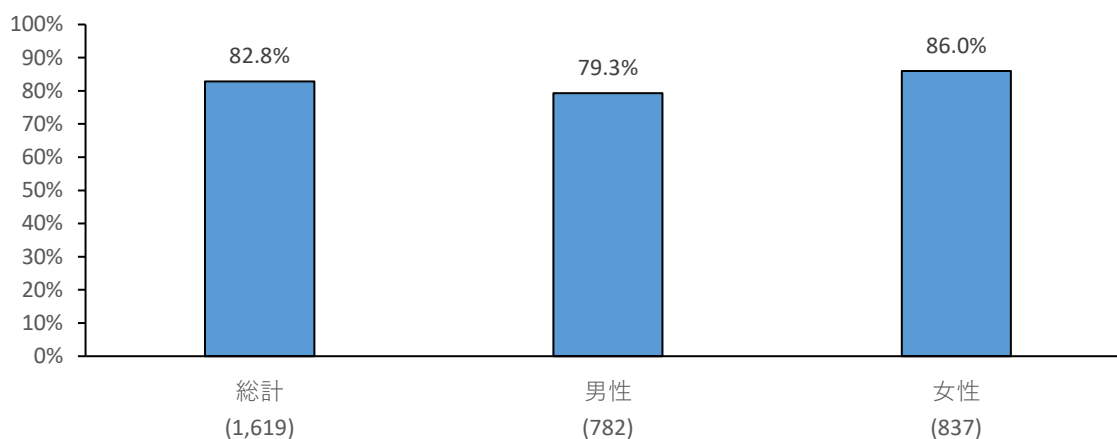


今食べている食事の量は、適量を心がけていると回答した者の割合は、男性79.3%、女性86.0%であり、男性の割合が低い。

年齢階級別にみると、男性は30歳代で、女性は20歳代で最も低い。

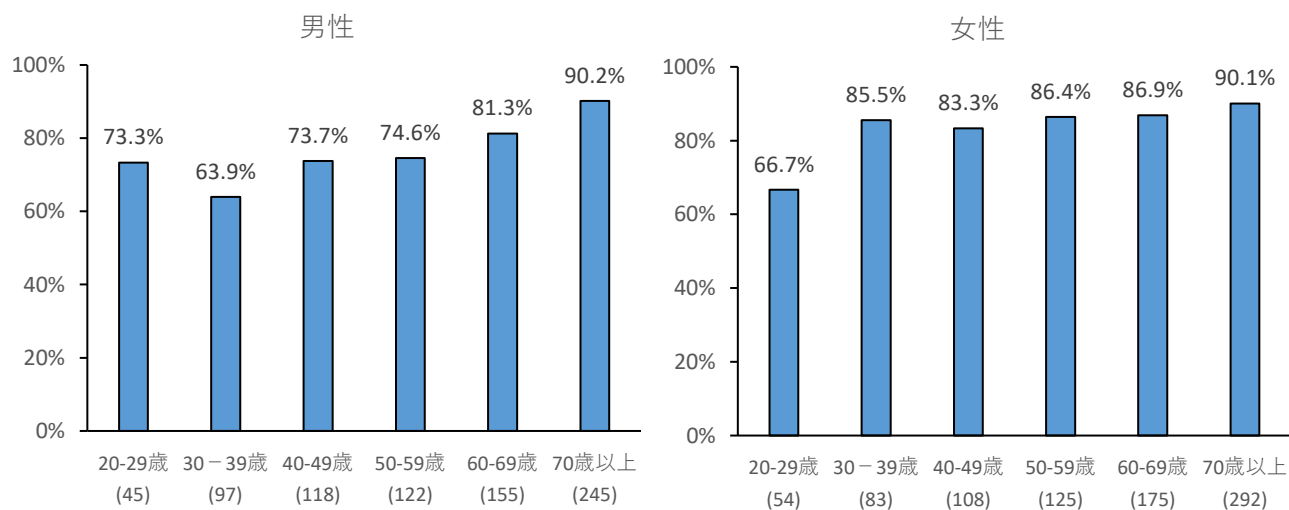
(5) 食事の適量に関する意識の状況 (20歳以上)

図4-⑤ 食事の量は適量を心がけている者の割合 (性別)



(6) 食事の適量に関する意識の状況 (性・年齢階級別)

図4-⑥ 食事の量は適量を心がけている者の割合 (性・年齢階級別)

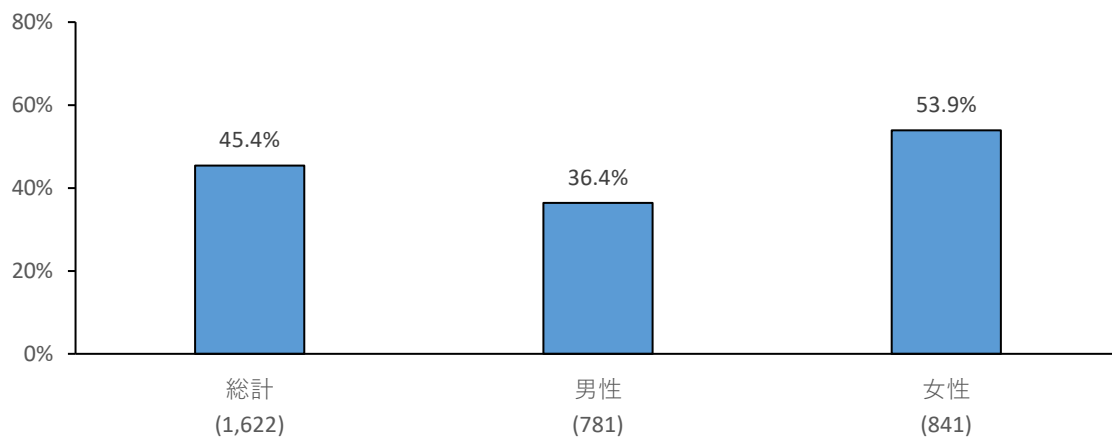


ふだん外食をするときや食品を買うときに、食品中の塩分カットや糖質ゼロなど栄養成分の表示を「いつも」「時々」参考に使っている割合は、男性36.4%、女性53.9%であり、女性の割合が高い。

年齢階級別にみると、女性の30～60歳代で高く、半数を超えている。

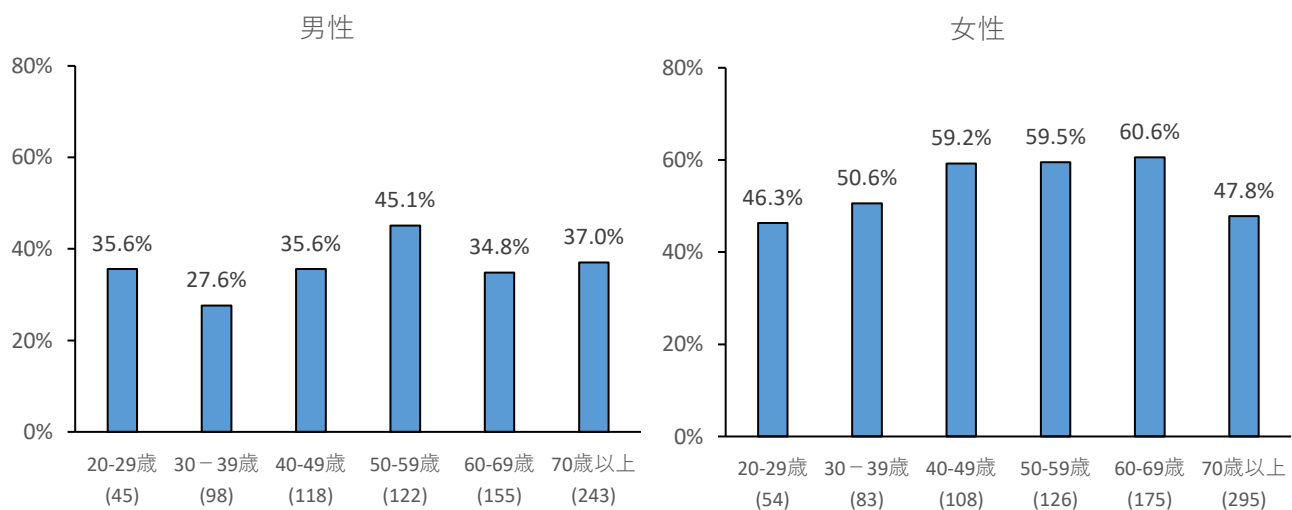
(7) 栄養成分表示を参考にしている者の状況（20歳以上）

図4-⑦ 食品中の塩分カットや糖質ゼロなど栄養成分表示を「いつも」及び「時々」参考にしている者の割合（性別）



(8) 栄養成分表示を参考にしている者の状況（性・年齢階級別）

図4-⑧ 食品中の塩分カットや糖質ゼロなど栄養成分表示を「いつも」及び「時々」参考にしている者の割合（性・年齢階級別）

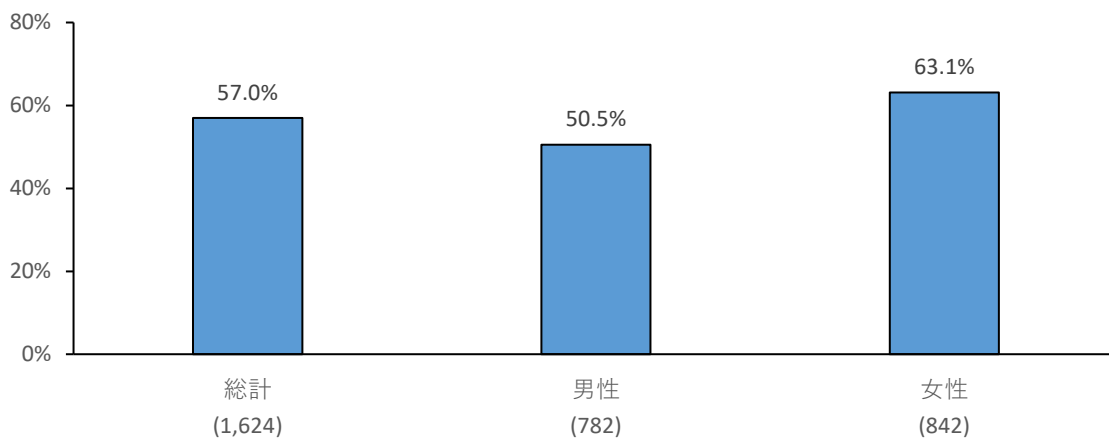


ゆっくりよくかんで食事をしている者の割合は、男性50.5%、女性63.1%であり、男性の割合が低い。

年齢階級別にみると、男性は30～40歳代で、女性は20、40～50歳代で低い。

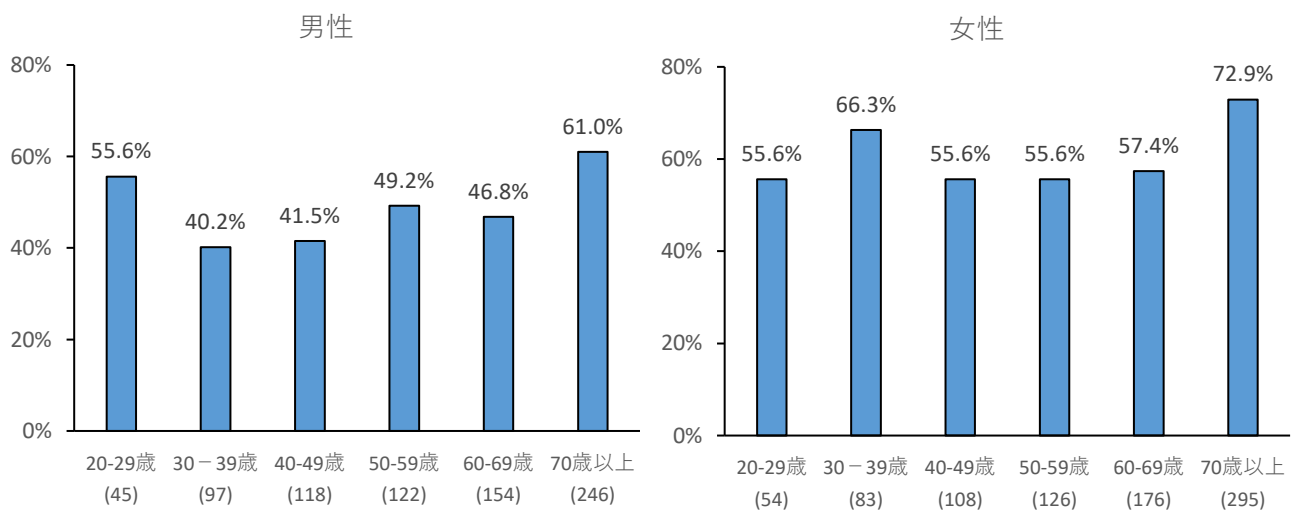
(9) ゆっくりよくかんで食事をする者の状況 (20歳以上)

図4-⑨ ゆっくりよくかんで食事をする者の割合 (性別)



(10) ゆっくりよくかんで食事をする者の状況 (性・年齢階級別)

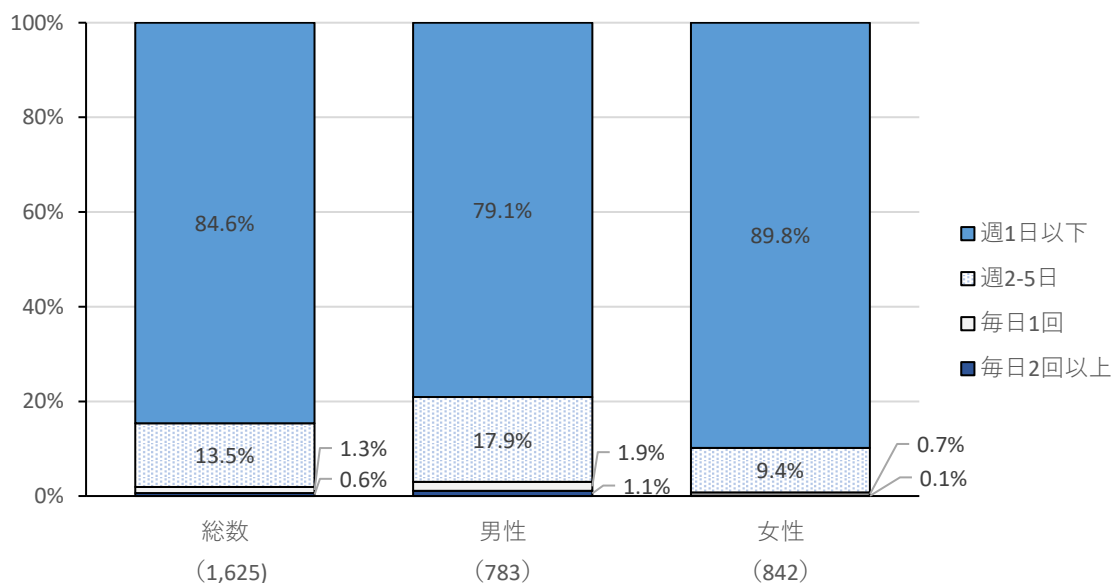
図4-⑩ ゆっくりよくかんで食事をする者の割合 (性・年齢階級別)



外食（飲食店での食事）を週2日以上利用すると回答した者の割合は、男性20.9%、女性10.2%であり、男性の割合が高い。
 年齢階級別にみると、男女とも20歳代で最も高い。

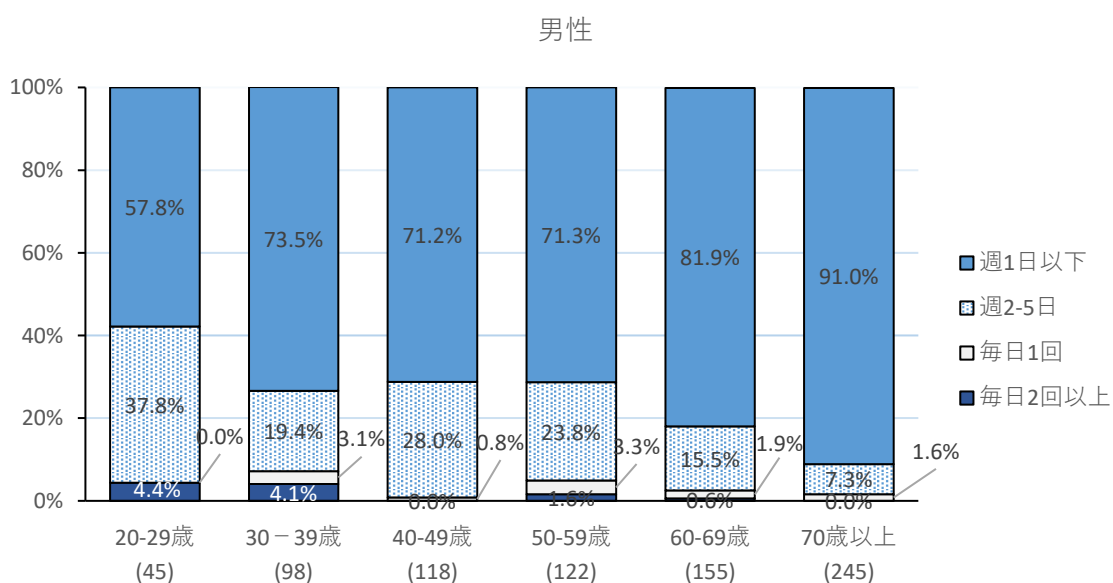
(11) 外食の利用の状況（成人）

図4-⑪ 外食（飲食店での食事）利用者の割合（性別）

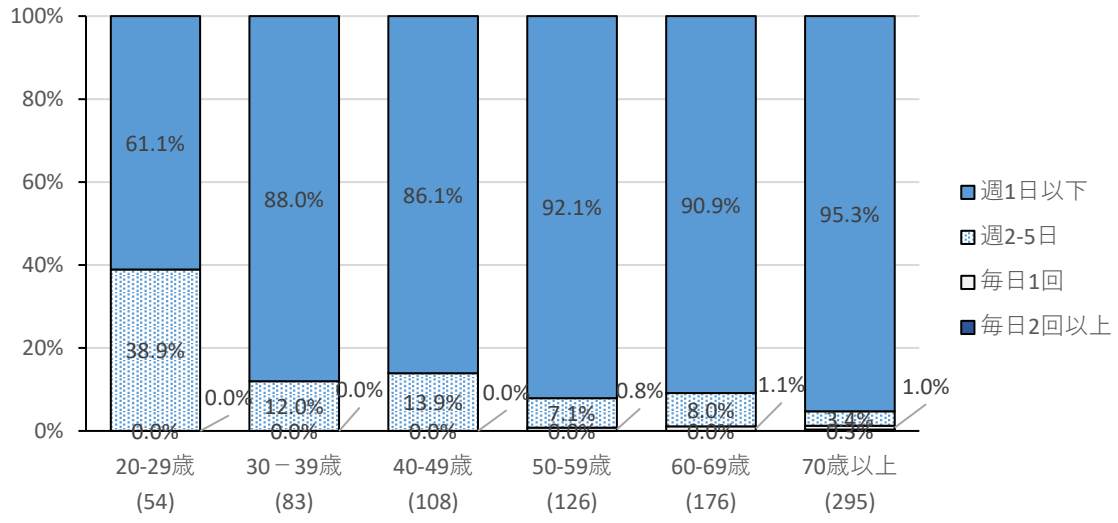


(12) 外食の利用の状況（性・年齢階級別）

図4-⑫ 外食（飲食店での食事）利用者の割合（性・年齢階級別）



女性

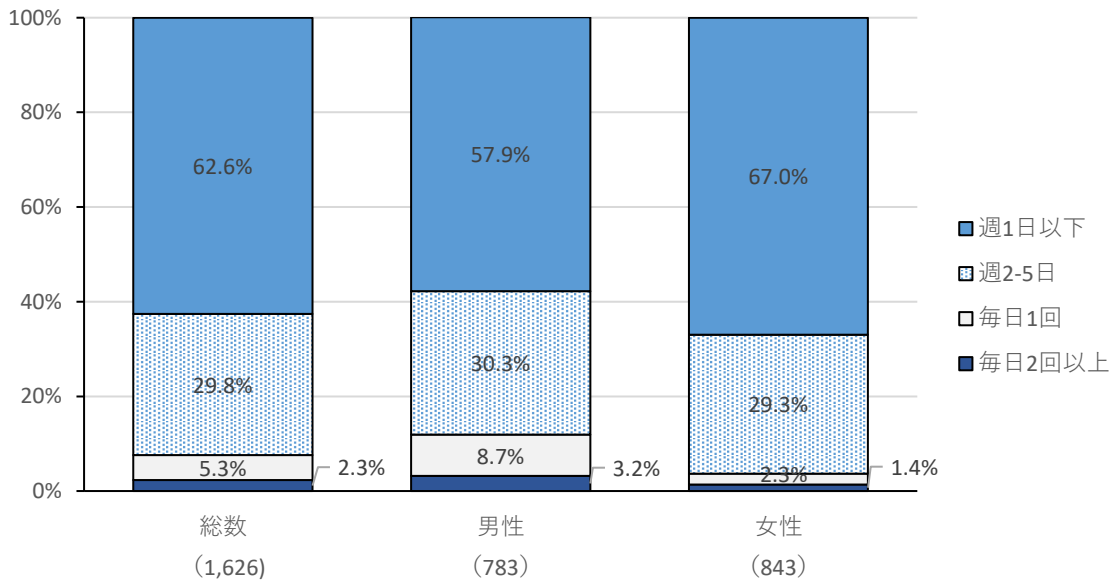


市販の惣菜を週2日以上利用すると回答した者の割合は、男性42.2%、女性33.0%であり、男性の割合が高い。

年齢階級別にみると、男性は20～50歳代、女性は20歳代が高い。

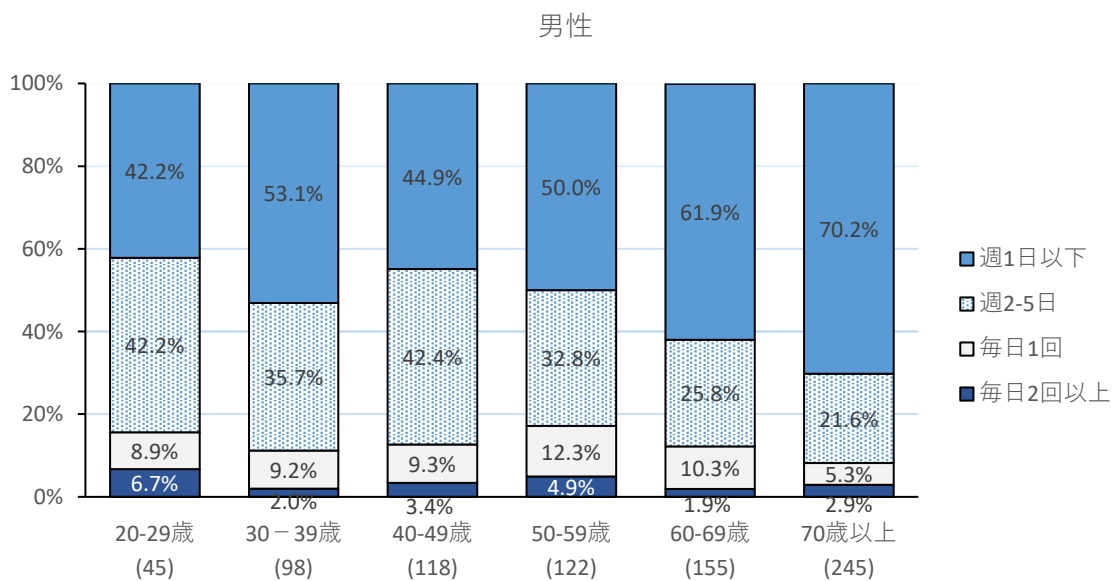
(13) 市販の惣菜の利用の状況（20歳以上）

図4-⑬ 市販の惣菜の利用者の割合（性別）

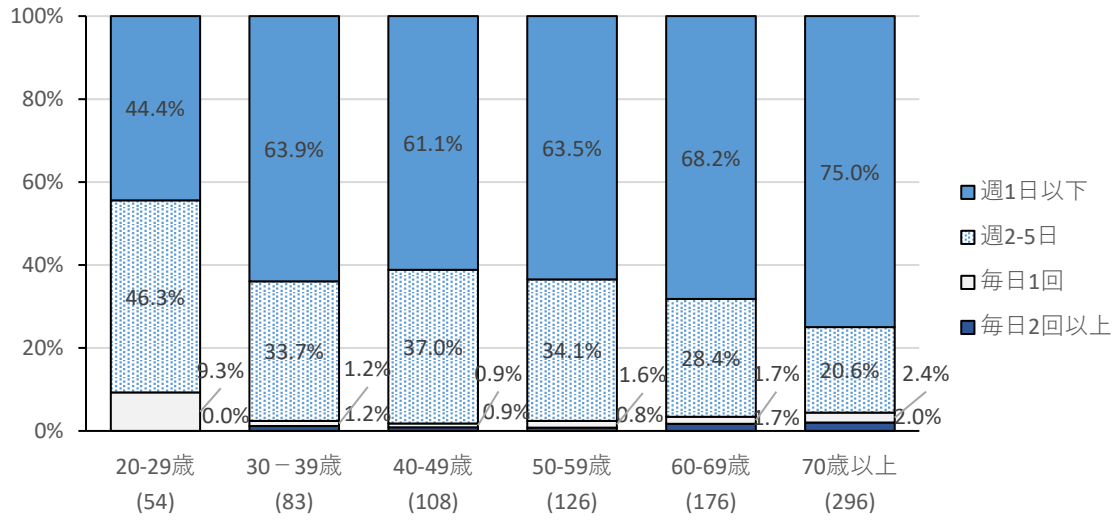


(14) 市販の惣菜の利用の状況（性・年齢階級別）

図4-⑭ 市販の惣菜の利用者の割合（性・年齢階級別）



女性

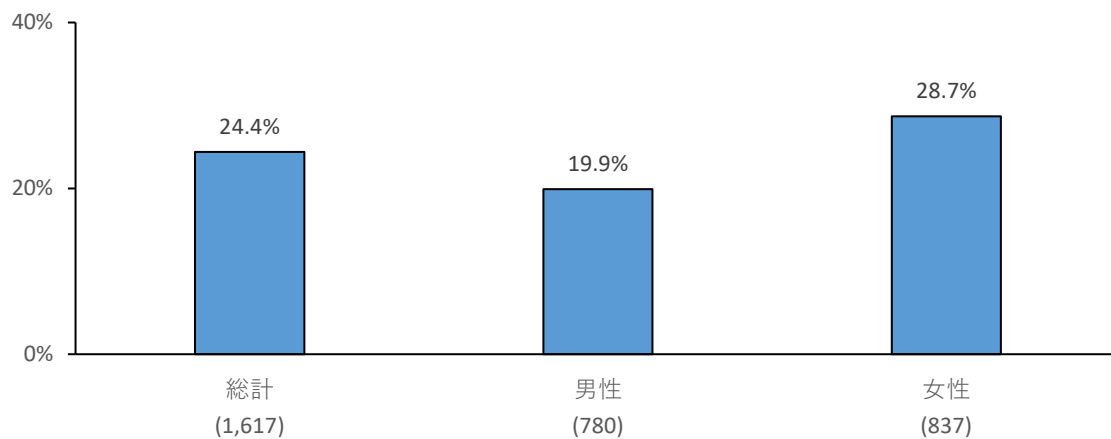


減塩を「すでに実践できている」と回答した者の割合は、男性19.9%、女性28.7%であり、男性の割合が低い。

年齢階級別にみると、男性は40歳代で、女性は20歳代で最も低い。

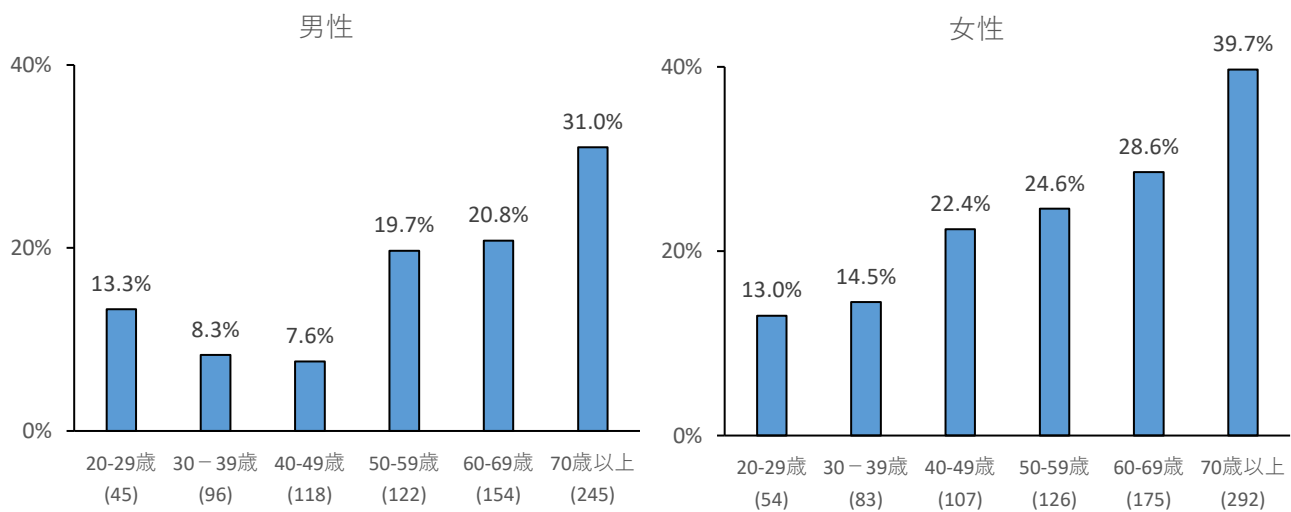
(15) 減塩の実践の状況（20歳以上）

図4-⑮ 減塩をすでに実践できている者の割合（性別）



(16) 減塩の実践の状況（性・年齢階級別）

図4-⑯ 減塩をすでに実践できている者の割合（性・年齢階級別）



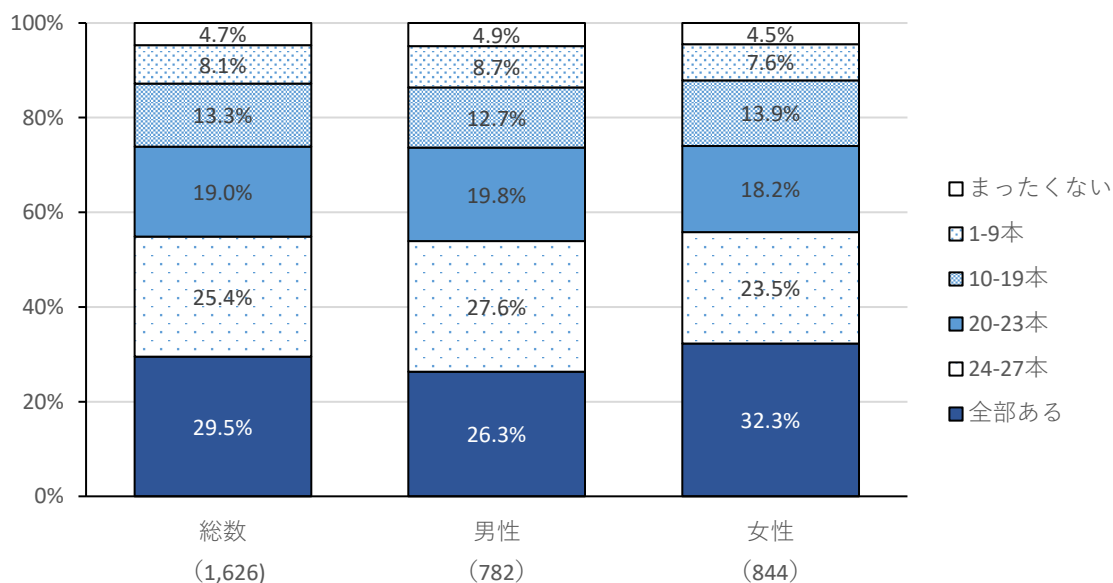
5 歯の状況

保有歯の状況について、「20本以上」と回答した者の割合は、男性73.7%、女性74.0%である。

年齢階級別にみると、年代が上がるとともに減少し、70歳以上では男性は48.0%、女性は46.2%であった。

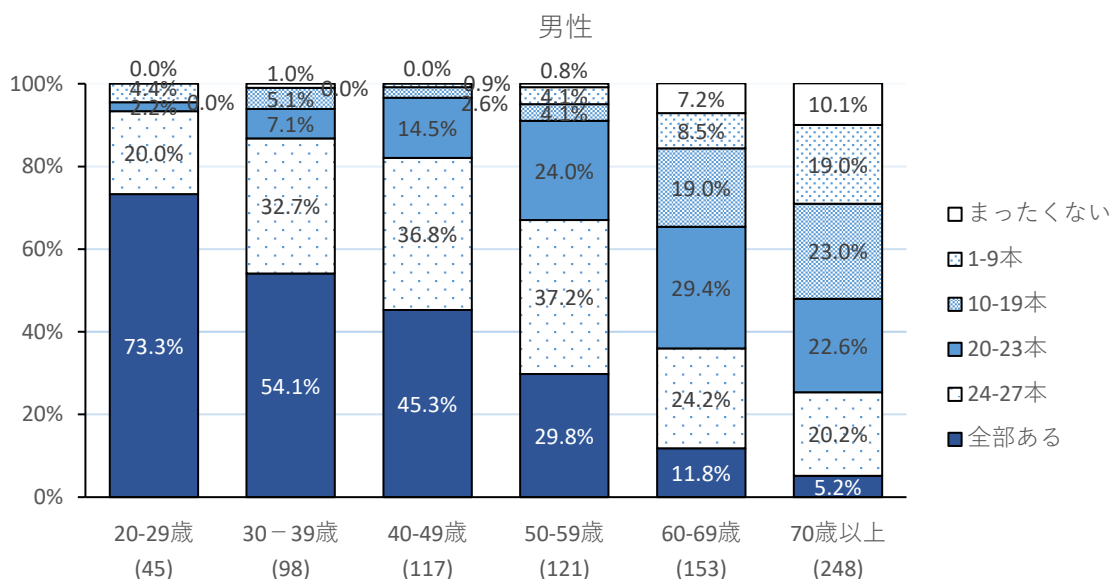
(1) 歯の保有状況（20歳以上）

図5-① 歯の保有数（性別）

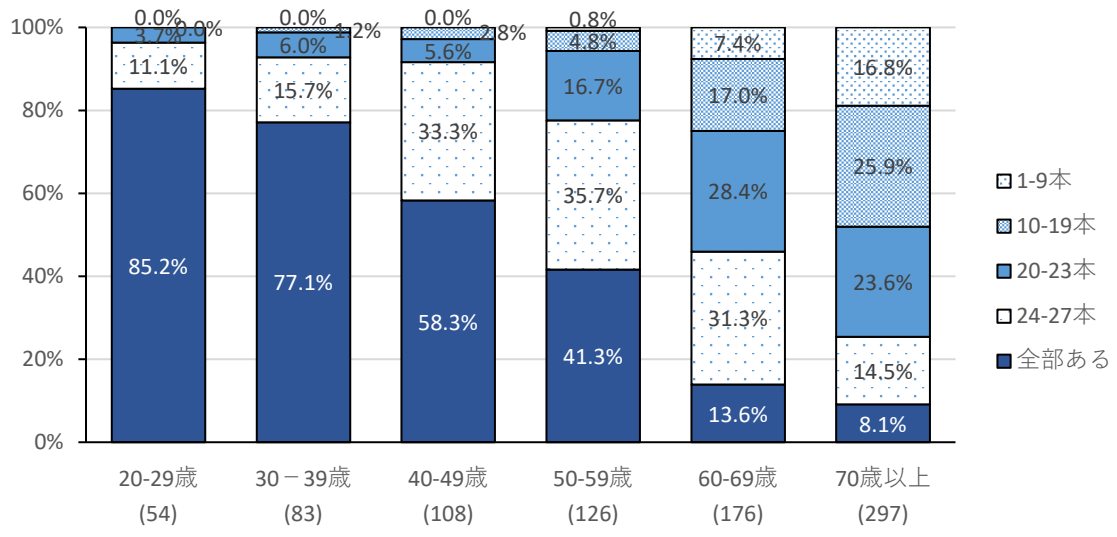


(2) 歯の保有状況（性・年齢階級別）

図5-② 歯の保有数（性・年齢階級別）



女性

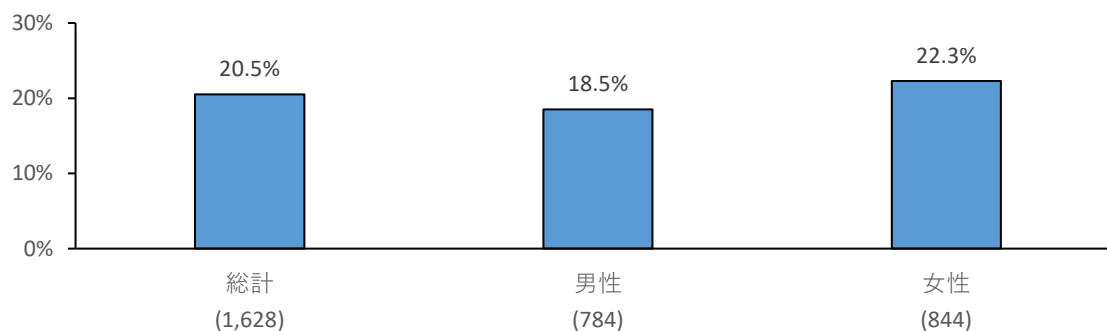


6 休養の状況

睡眠による休養が「あまりとれていない」「まったくとれていない」と回答した者の割合は、男性18.5%、女性22.3%である。
 年齢階級別にみると、男性は30歳代、女性は50歳代で最も高い。

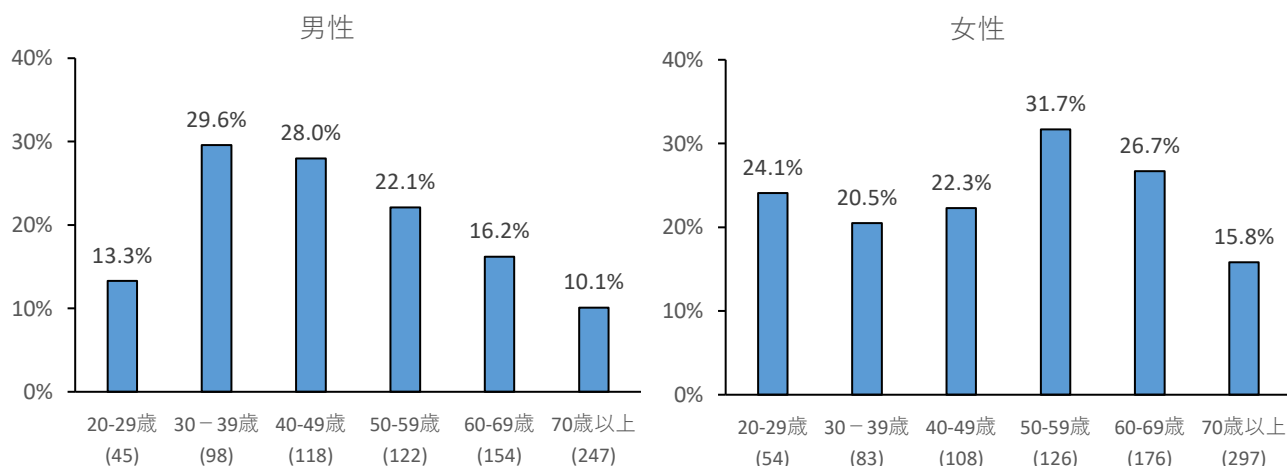
(1) 睡眠による休養の状況 (20歳以上)

図6-① 睡眠による休養を「あまりとれていない」「まったくとれていない」と回答した者の割合 (性別)



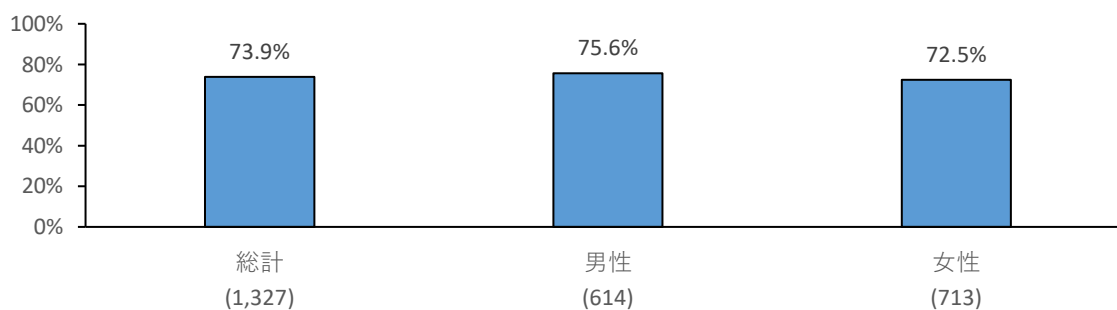
(2) 睡眠による休養の状況 (性・年齢階級別)

図6-② 睡眠による休養を「あまりとれていない」「まったくとれていない」と回答した者の割合 (性・年齢階級別)



(3) ストレスの解消の状況

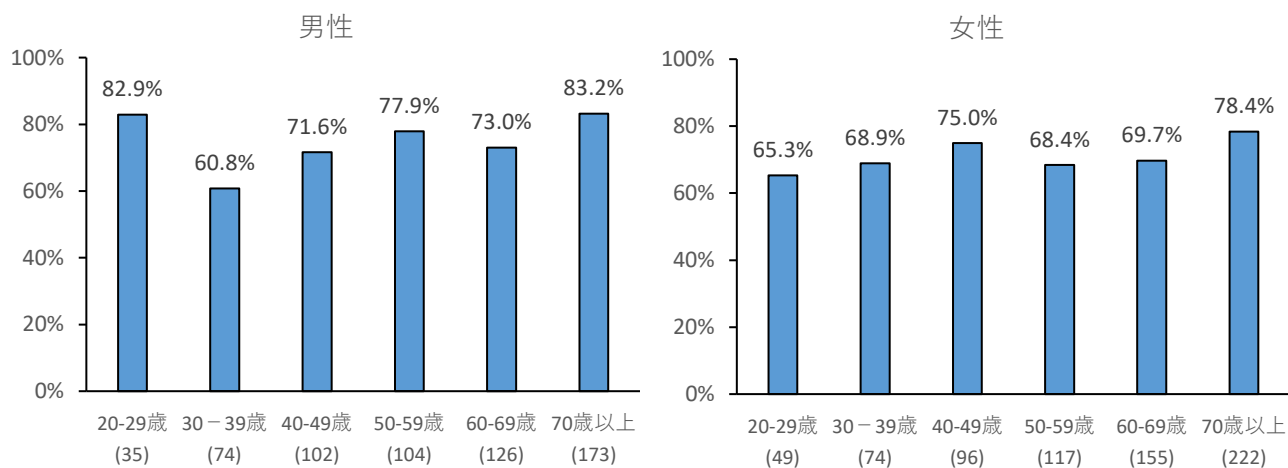
図6-③ 不満、悩み、苦勞、ストレスなどを自分なりの解消法で「充分」および「なんとか」処理できている者の割合 (性別)



(4) ストレスの解消の状況 (性・年齢階級別)

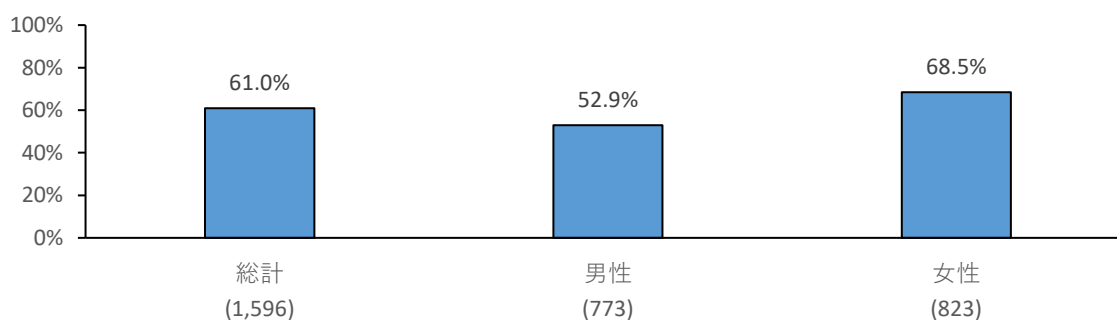
図6-④ 不満、悩み、苦勞、ストレスなどを自分なりの解消法で

「充分」および「なんとか」処理できている者の割合 (性・年齢階級別)



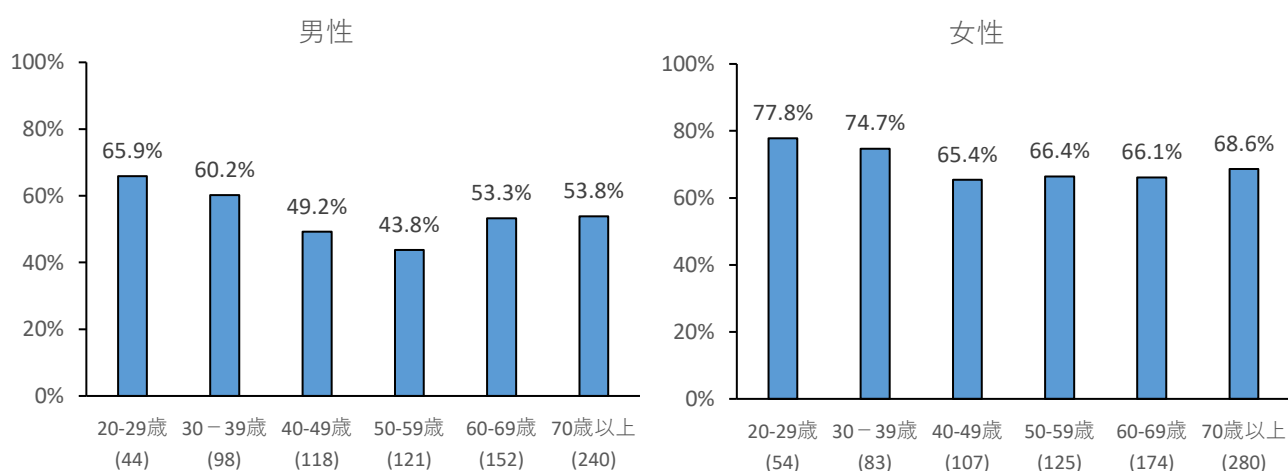
(5) 気軽に相談できる相手の状況

図6-⑤ 悩みなどを気軽に相談できる相手がいる者の割合 (性別)



(6) 気軽に相談できる相手の状況 (性・年齢階級別)

図6-⑥ 悩みなどを気軽に相談できる相手がいる者の割合 (性・年齢階級別)



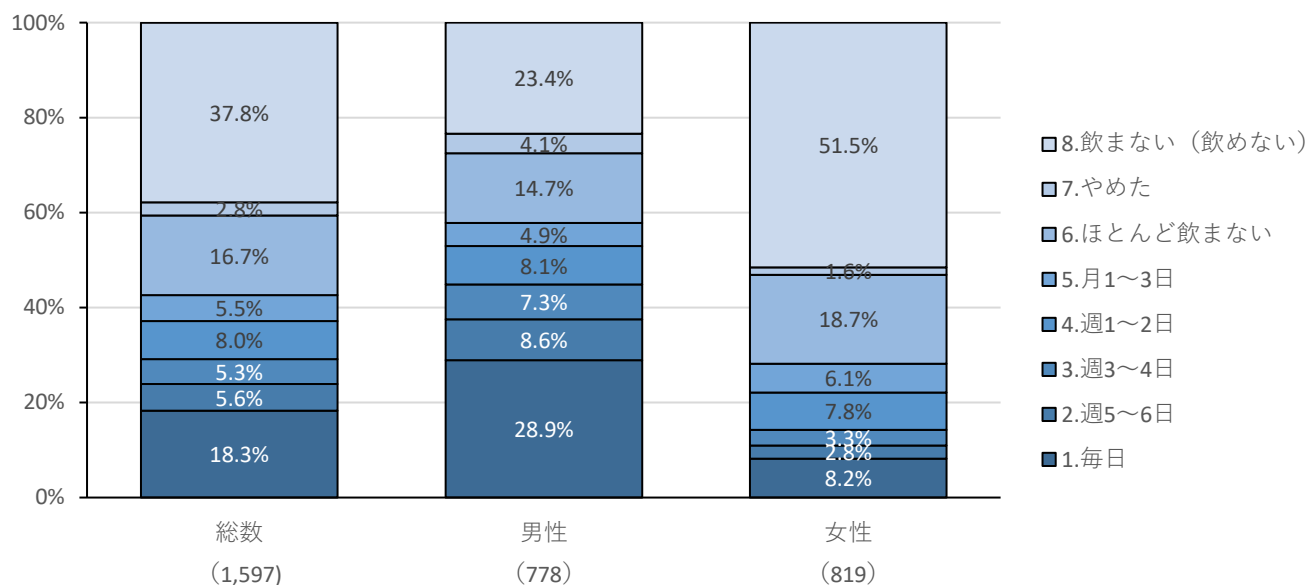
7 お酒の状況

飲酒の習慣について、お酒を「飲む（月1回以上）」と回答した者の割合は、男性57.8%、女性28.2%である。年齢階級別にみると、男女とも50歳代で最も高い。

生活習慣病のリスクを高める量を飲酒している者は、男性17.6%、女性9.4%である。年齢階級別にみると、男性は40歳代、女性は50歳代で最も高い。

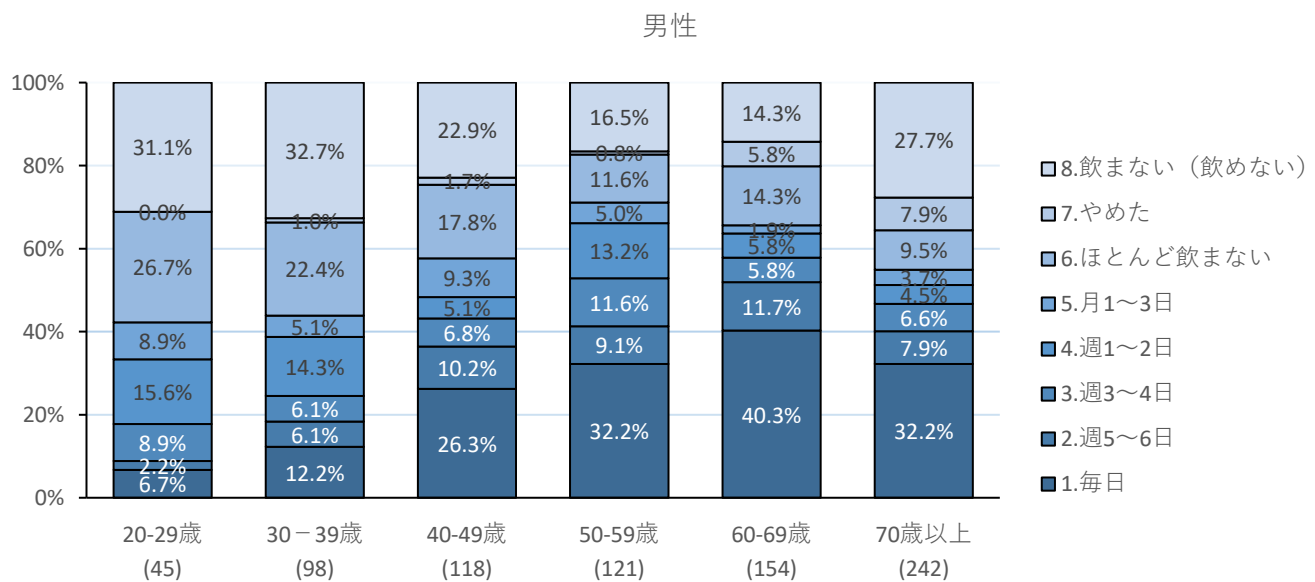
(1) 飲酒の状況（20歳以上）

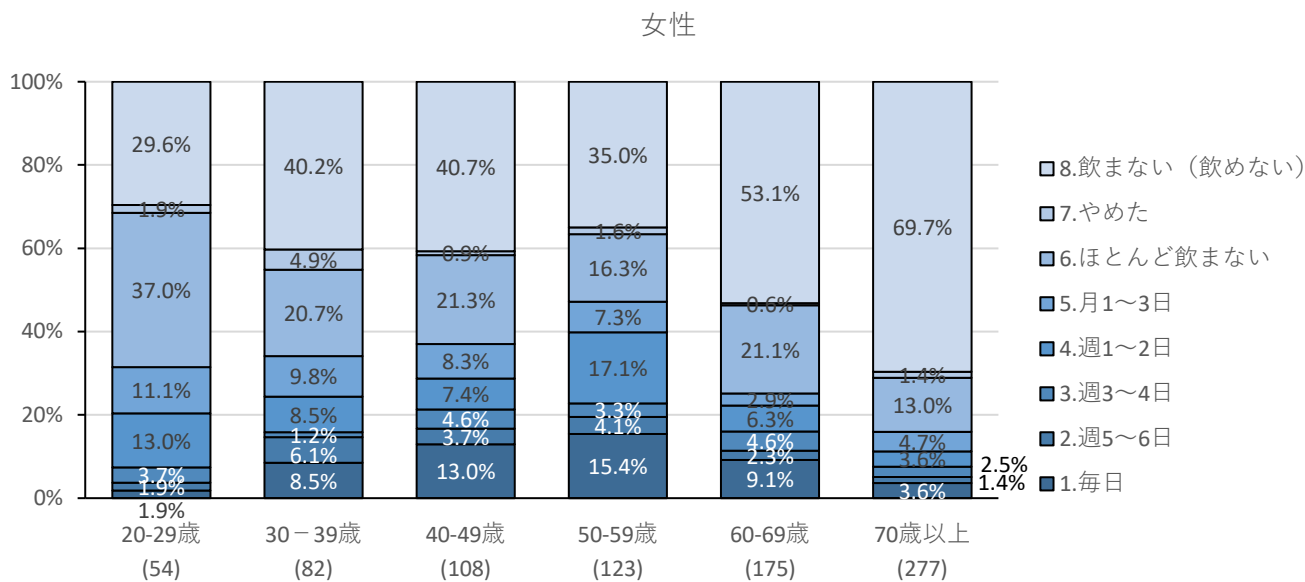
図7-① 飲酒の状況（性別）



(2) 飲酒の状況（性・年齢階級別）

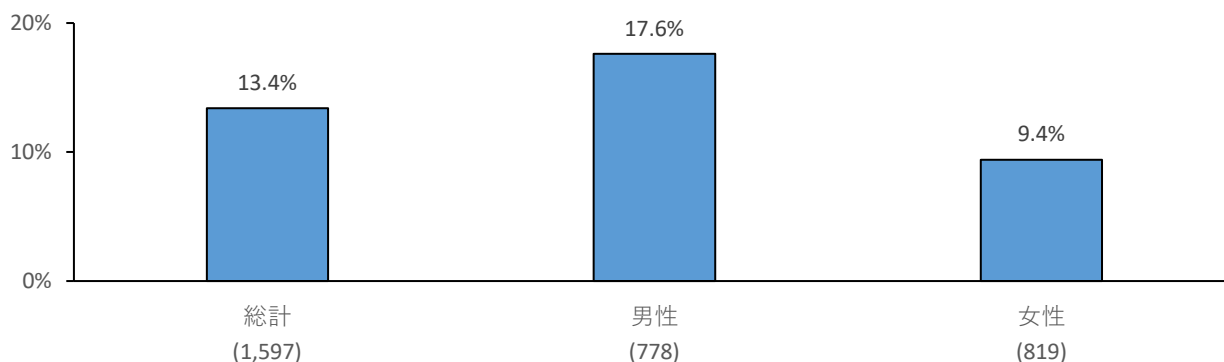
図7-② 飲酒の状況（性・年齢階級別）





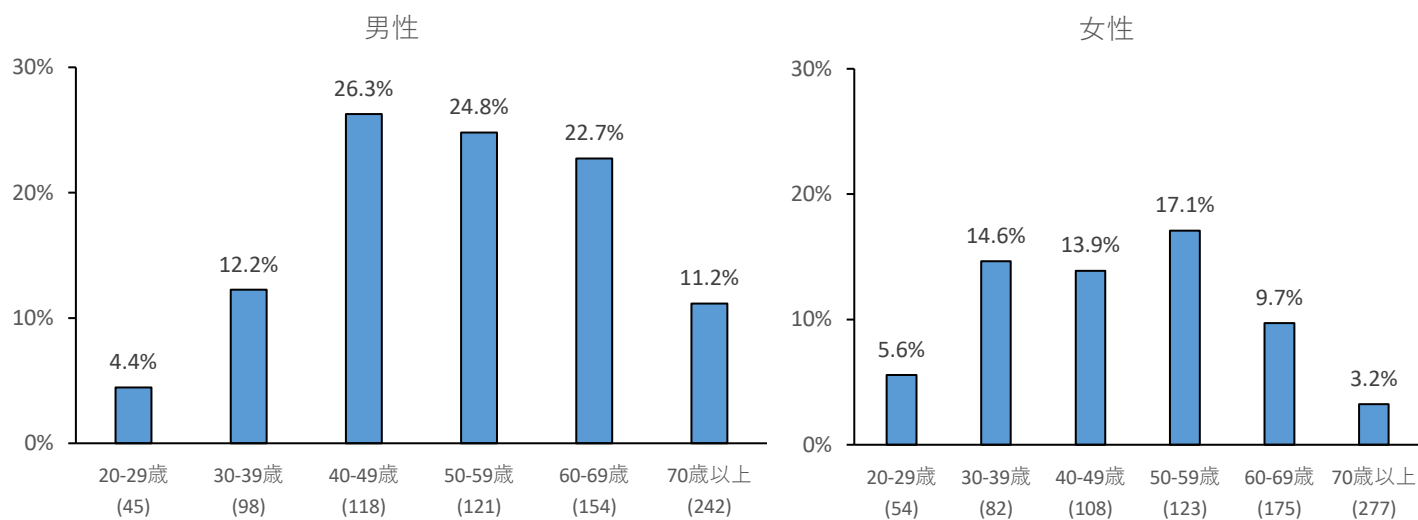
(3) 生活習慣病のリスクを高める量の飲酒をしている者の状況 (20歳以上)

図7-③ 生活習慣病のリスクを高める量を飲酒している者の割合 (性別)



(4) 生活習慣病のリスクを高める量を飲酒している者の状況 (性・年齢階級別)

図7-④ 生活習慣病のリスクを高める量を飲酒している者の割合 (性・年齢階級別)



生活習慣病のリスクを高める飲酒量とは？

男性：（「毎日×2合以上」＋「週5-6日×2合以上」＋「週3-4日×3合以上」＋「週1-2日×5合以上」＋「月1-3日×5合以上」）/全回答者

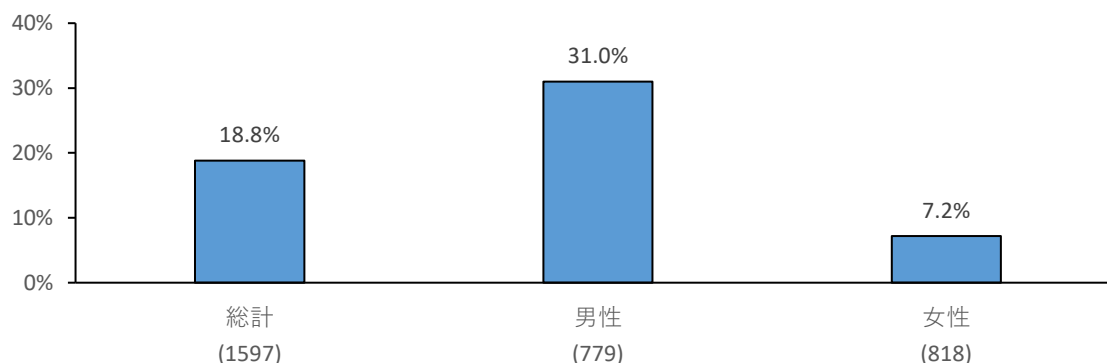
女性：（「毎日×1合以上」＋「週5-6日×1合以上」＋「週3-4日×1合以上」＋「週1-2日×3合以上」＋「月1-3日×5合以上」）/全回答者

8 喫煙の状況

喫煙の習慣について、「毎日吸う」「時々吸う」と回答した者の割合は、男性31.0%、女性7.2%である。年齢階級別にみると、男女とも50歳代で最も高く、男性は約5割であった。

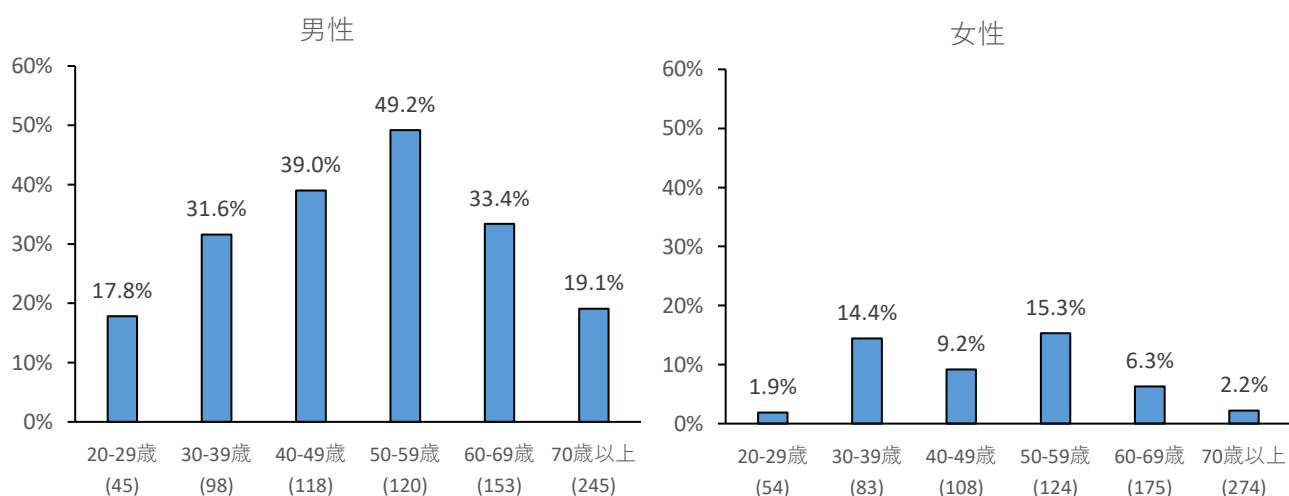
(1) 習慣的に喫煙する者の状況（20歳以上）

図8-① たばこを「毎日吸う」「時々吸う」と回答した者の割合（性別）



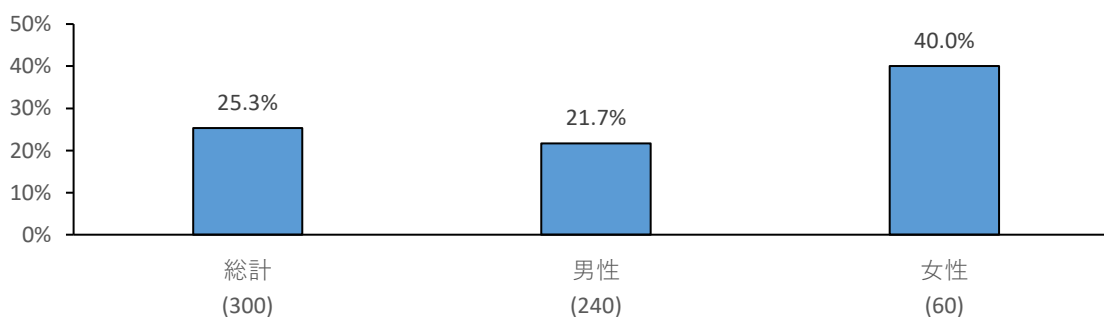
(2) 習慣的に喫煙する者の状況（性・年齢階級別）

図8-② たばこを「毎日吸う」「時々吸う」と回答した者の割合（性・年齢階級別）



(3) たばこをやめたいと思う者の状況（20歳以上）

図8-③ たばこをやめたいと思う者の割合（性別）※習慣的に喫煙する者

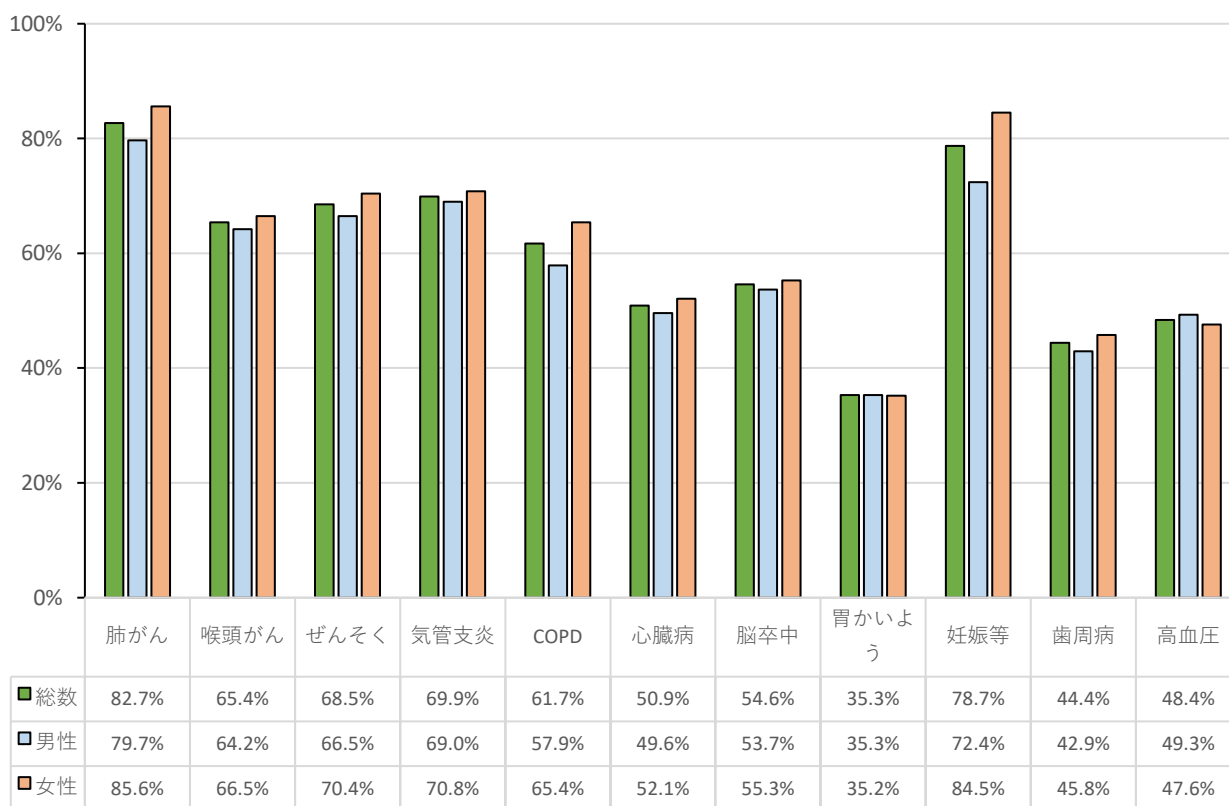


たばこを吸うとかかりやすくなる病気として、関連があると答えた者の割合は「肺がん」82.7%で、次いで「妊娠の胎児への影響（未熟児等）」78.7%、「気管支炎」69.9%の順で高い。

最も低かったのは、「胃かいよう」35.3%である。

(4) 喫煙の健康影響に関する知識の状況（20歳以上）

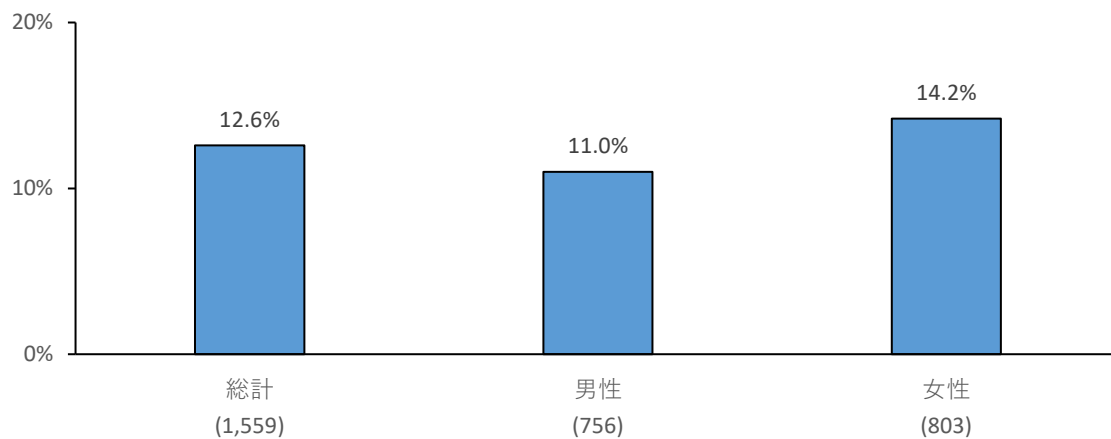
図8-④ 喫煙の健康影響に関する知識を持つ者の割合（性別）



家庭で「ほとんど毎日」受動喫煙の機会を有する者の割合は、男性11.0%、女性14.2%である。年齢階級別にみると、男性は20歳代、女性は50歳代で最も高い。

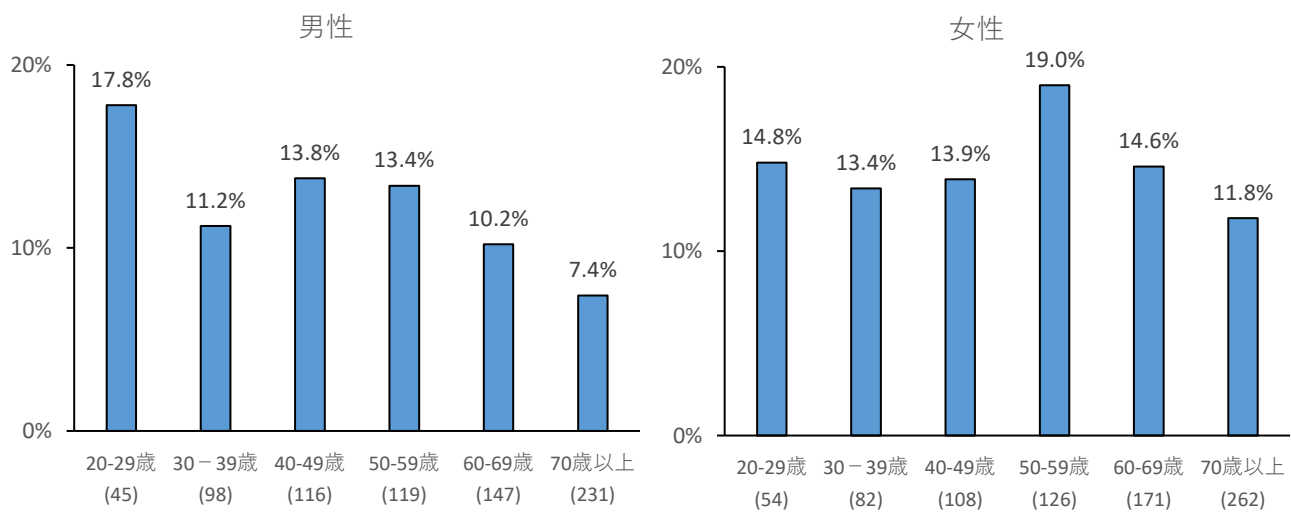
(5) 受動喫煙の機会の状況（家庭・ほとんど毎日・20歳以上）

図8-⑤ 受動喫煙の機会を有する者の割合（家庭・ほとんど毎日・性別）



(6) 受動喫煙の機会の状況（家庭・ほとんど毎日・性・年齢階級別）

図8-⑥ 受動喫煙の機会を有する者の割合（家庭・ほとんど毎日・性・年齢階級別）

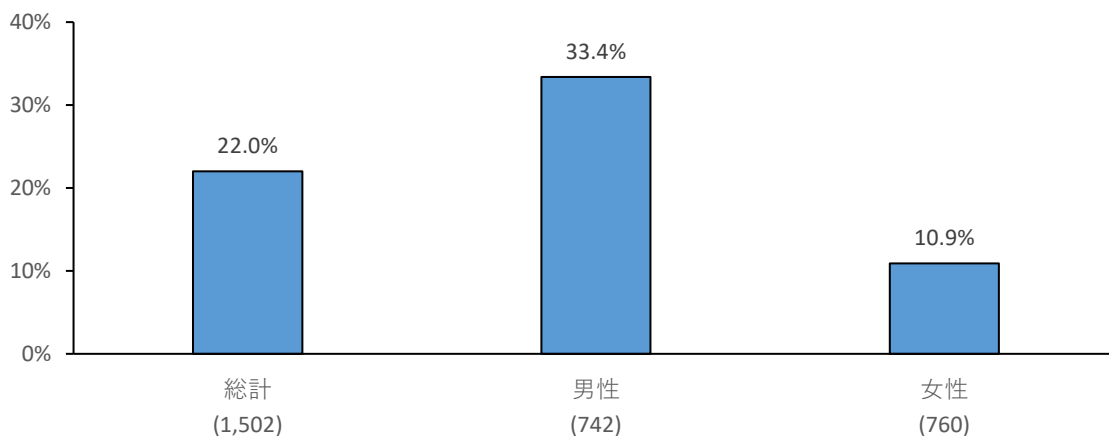


職場や学校で「月1回以上」受動喫煙の機会を有する者の割合は、男性**33.4%**、女性**10.9%**である。飲食店で「月1回以上」受動喫煙の機会を有する者の割合は、男性**17.3%**、女性**10.6%**である。

職場や学校、飲食店のどちらも男性の割合が高い。

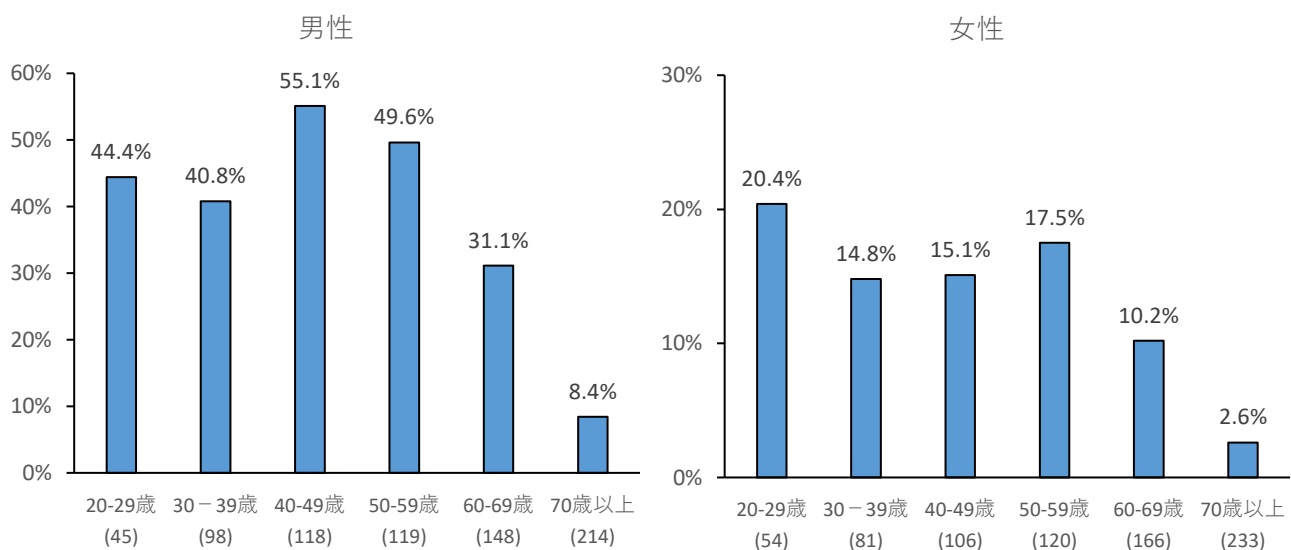
(7) 受動喫煙の機会の状況（職場や学校・月に1回以上・20歳以上）

図8-⑦ 受動喫煙の機会を有する者の割合（職場や学校・月に1回以上・性別）



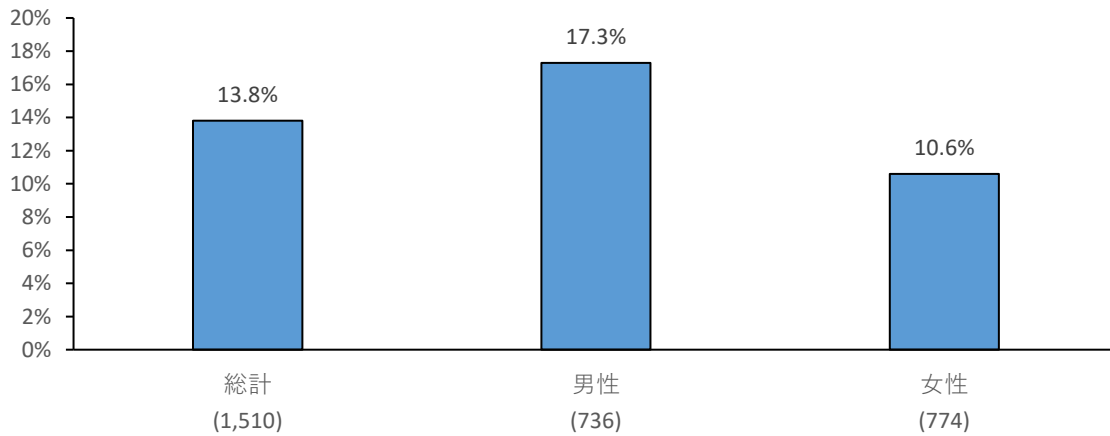
(8) 受動喫煙の機会の状況（職場や学校・月に1回以上・20歳以上）

図8-⑧ 受動喫煙の機会を有する者の割合
（職場や学校・月に1回以上・性・年齢階級別）



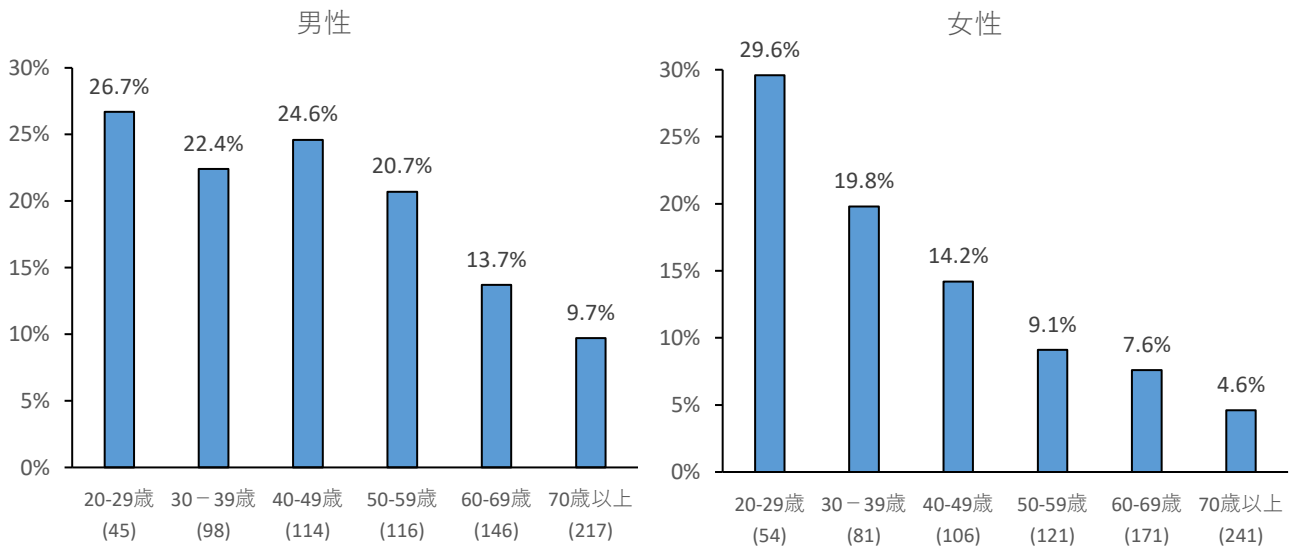
(9) 受動喫煙の機会の状況（飲食店・月に1回以上）

図8-⑨ 受動喫煙の機会を有する者の割合（飲食店・月に1回以上・性別）



(10) 受動喫煙の機会の状況（飲食店・月に1回以上）

図8-⑩ 受動喫煙の機会を有する者の割合（飲食店・月に1回以上・性・年齢階級別）

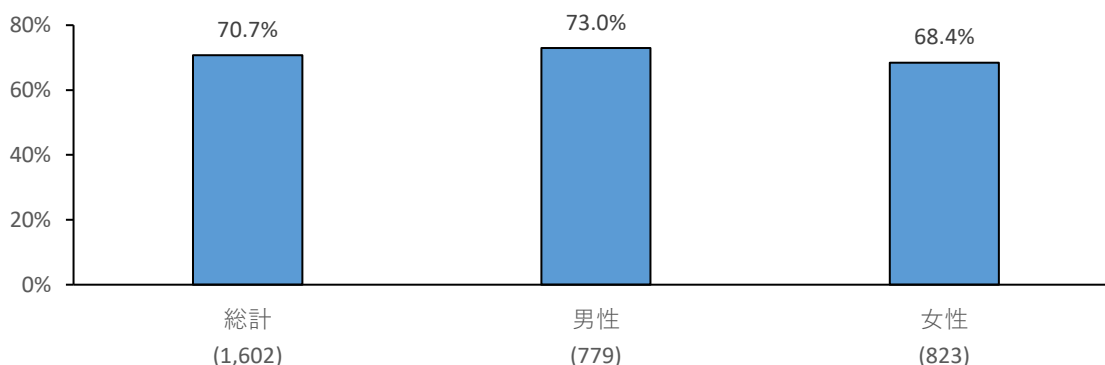


9 医療の受診状況

過去1年間に健診や人間ドックを受けたことのある者の割合は70.7%である。
 メタボリックシンドロームを知っている者の割合は60.9%である。
 がん検診の受診率は、「肺がん」の受診率が最も高い。

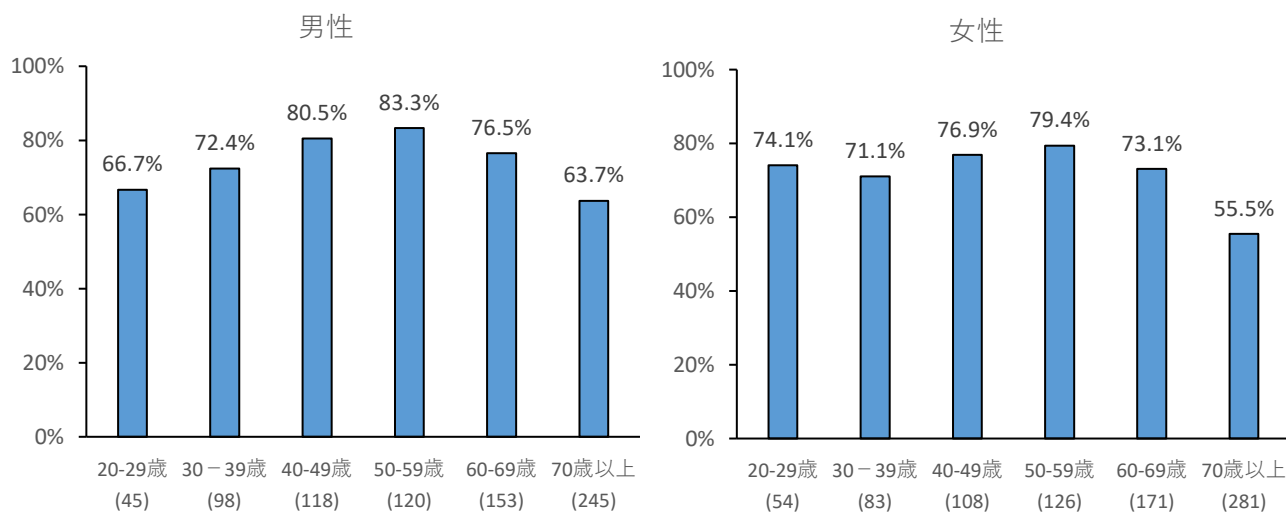
(1) 過去1年間の健診受診の状況 (20歳以上)

図9-① 過去1年間に健診を受けた者の割合 (性別)



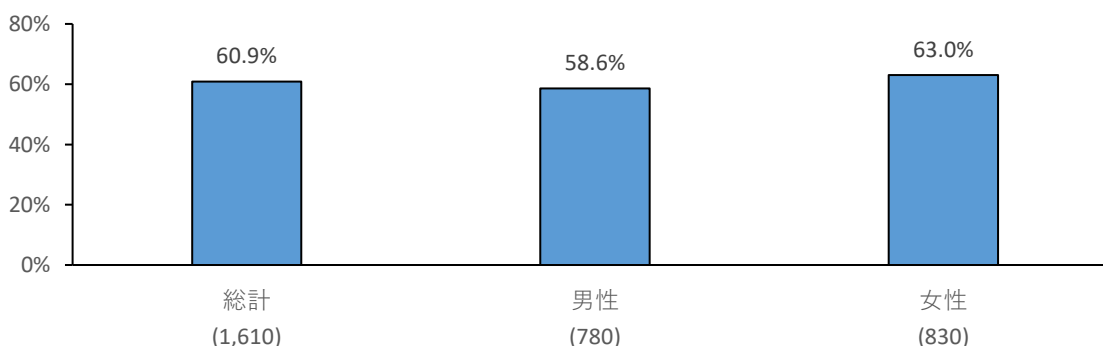
(2) 過去1年間の健診受診の状況 (性・年齢階級別)

図9-② 過去1年間に健診を受けた者の割合 (性・年齢階級別)



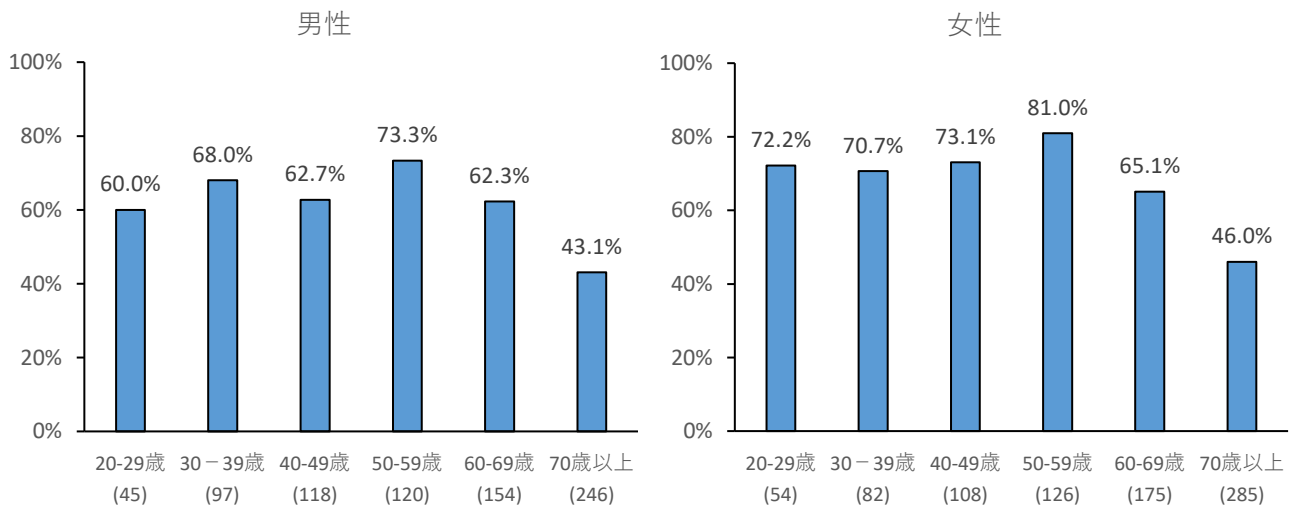
(3) メタボリックシンドロームの認知状況 (20歳以上)

図9-③ メタボリックシンドロームを知っている者の割合 (性別)



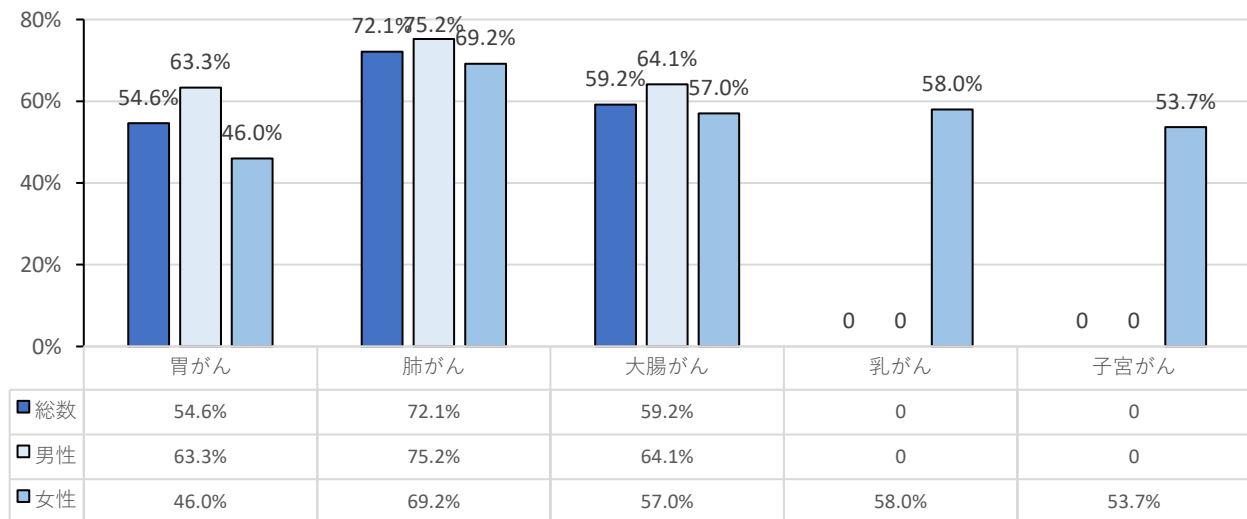
(4) メタボリックシンドロームの認知状況（性・年齢階級別）

図9-④ メタボリックシンドロームを知っている者の割合（性・年齢階級別）



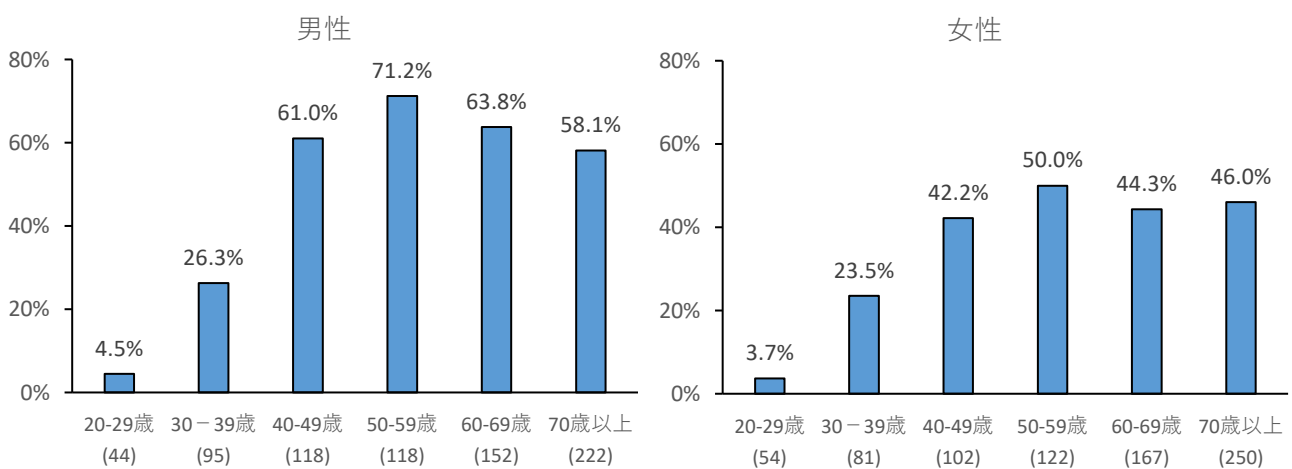
(5) がん検診の受診状況（20歳以上） ※40歳から74歳まで。

図9-⑤ がん受診率（40～79歳まで）



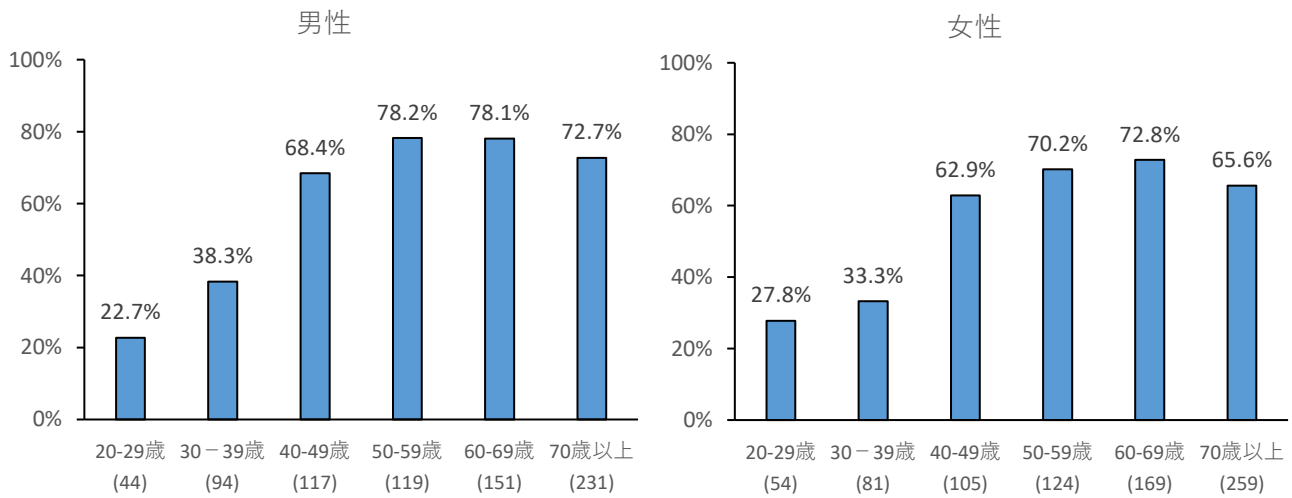
(6) 胃がん検診状況（20歳以上）

図9-⑥ 胃がん受診率（性・年齢階級別）



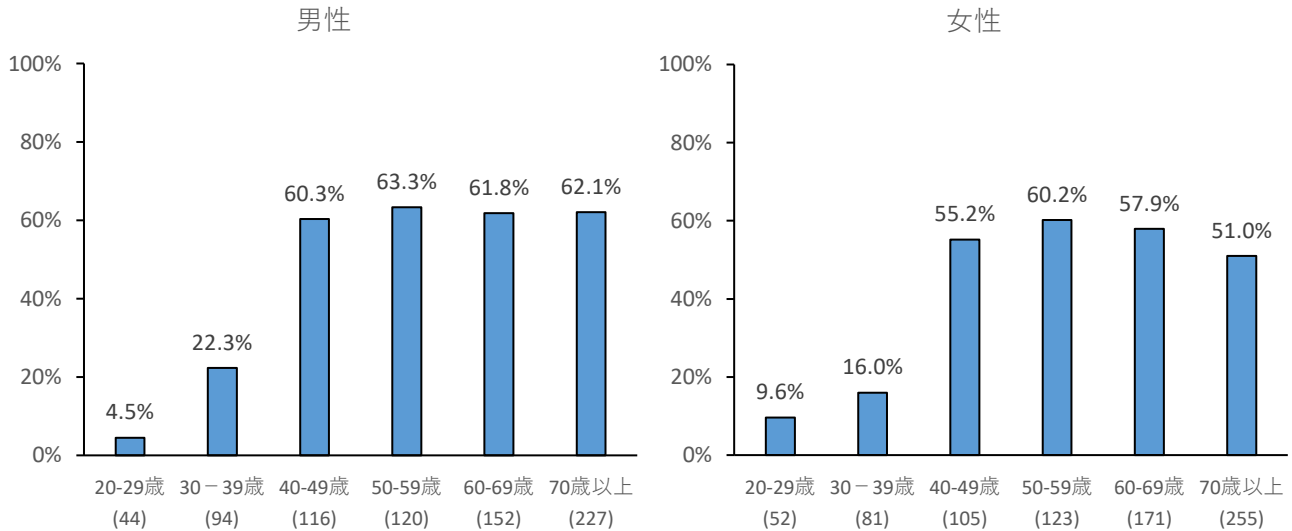
(7) 肺がん受診率 (20歳以上)

図9-⑦ 肺がん受診率 (性・年齢階級別)



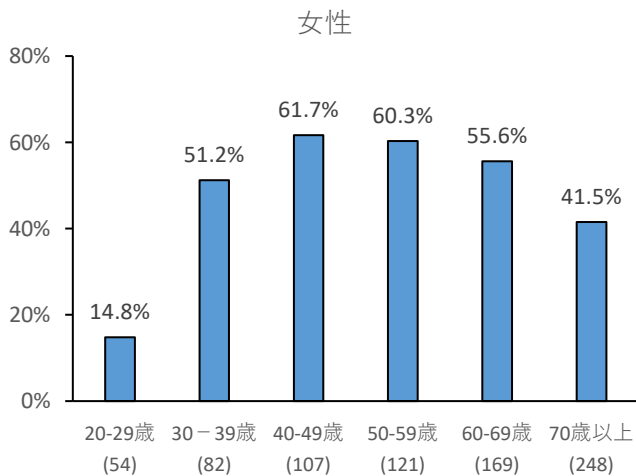
(8) 大腸がん受診率 (20歳以上)

図9-⑧ 大腸がん受診率 (性・年齢階級別)



(9) 乳がん受診率 (20歳以上)

図9-⑨ 乳がん受診率 (性・年齢階級別)

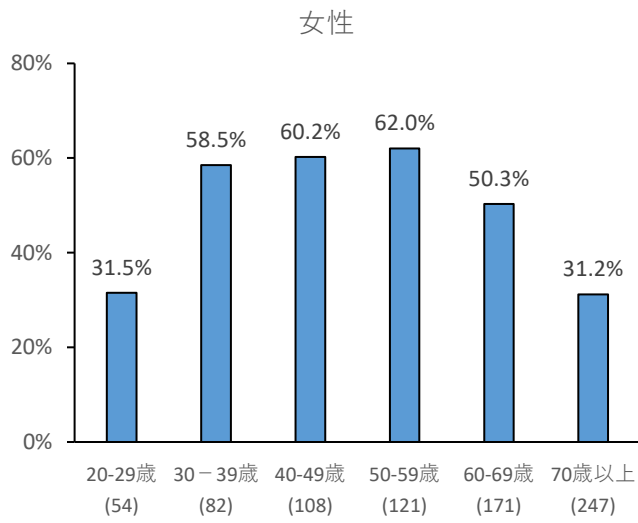


※一昨年も含め過去2年間に受診した者

(10) 子宮がん受診率（20歳以上）

※一昨年も含め過去2年間に受診した者

図9-⑩ 子宮がん受診率（性・年齢階級別）

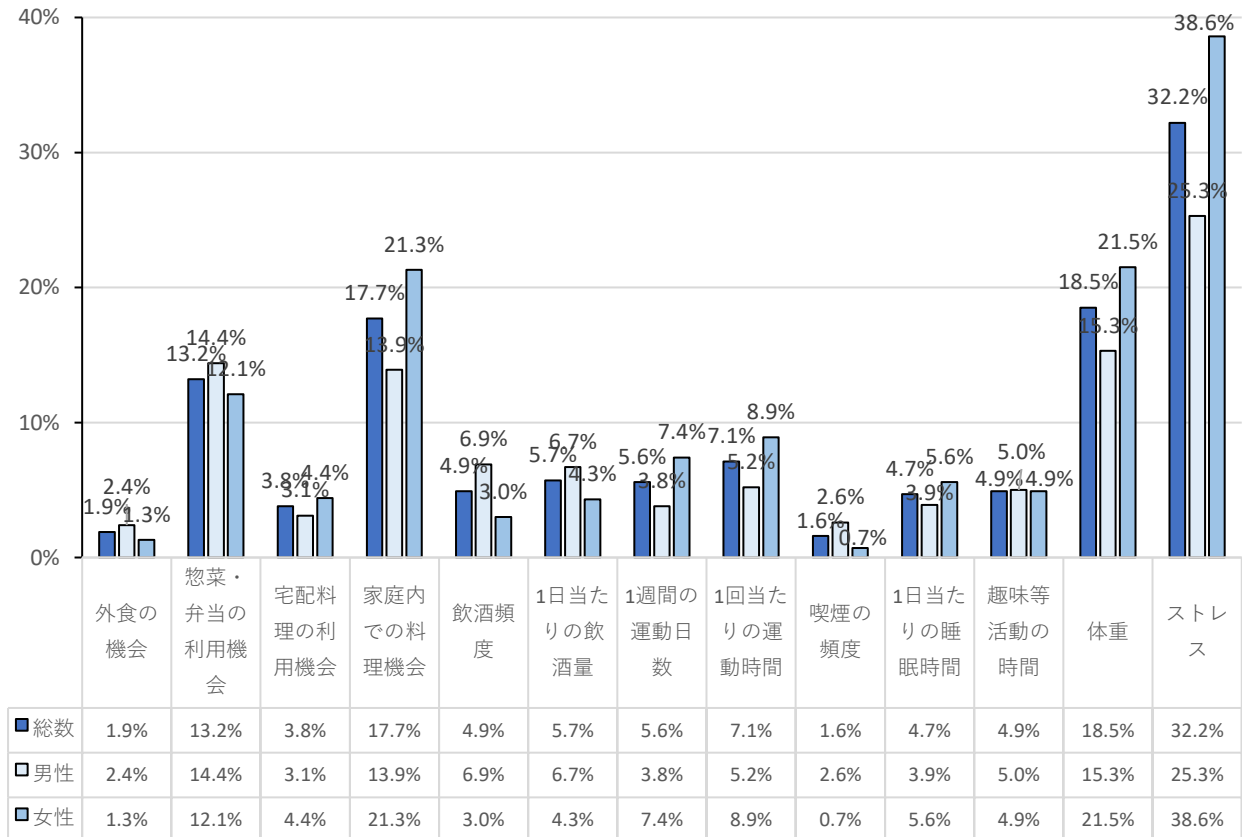


10 新型コロナウイルス感染症拡大前と比較した生活習慣の変化の状況

新型コロナウイルス感染症拡大前と比較した生活習慣が「感染拡大前より増えた」と回答した者の割合で、最も高いのは「ストレス」32.2%で、次いで「体重」18.5%である。最も低かったのは、「喫煙の頻度」1.6%である。

(1) 新型コロナウイルス感染症拡大前と比較した生活習慣の変化の状況（20歳以上）

図10-① 「感染症拡大前より増えた」と回答した者の割合（性別）



(2) 新型コロナウイルス感染症拡大前と比較した生活習慣の変化の状況（20歳以上）（項目別）

図10-② 「外食の機会」

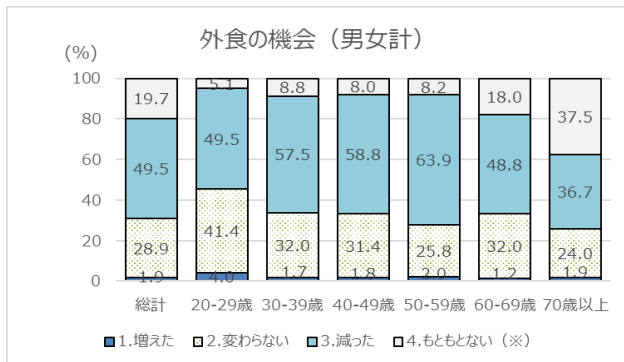


図10-③ 「市販の惣菜や弁当の利用機会」

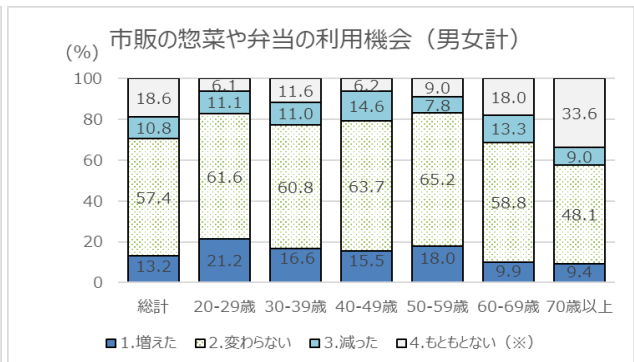


図10-④ 「宅配料理の利用機会」

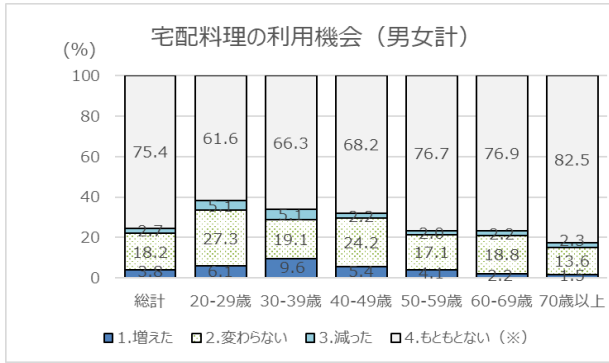


図10-⑤ 「家庭内で料理をする機会」

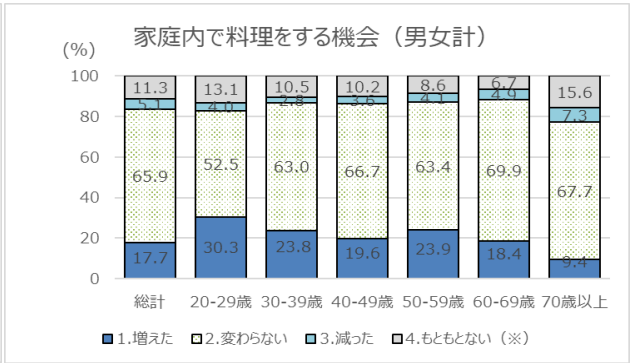


図10-⑥ 「飲酒の頻度」

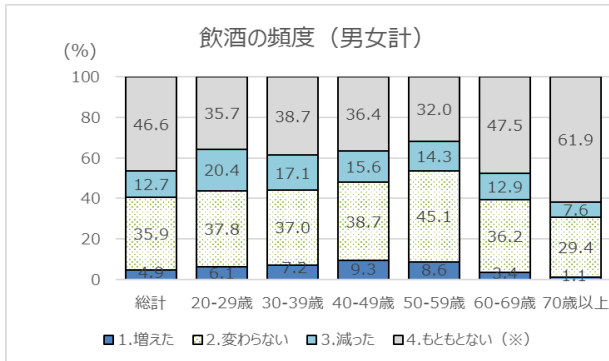


図10-⑦ 「1日当たりの飲酒の量」

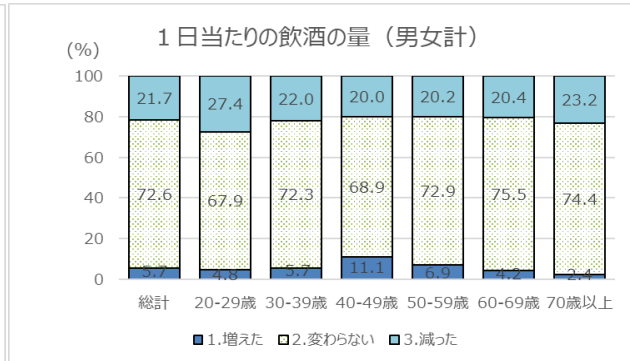


図10-⑧ 「1週間の運動日数」

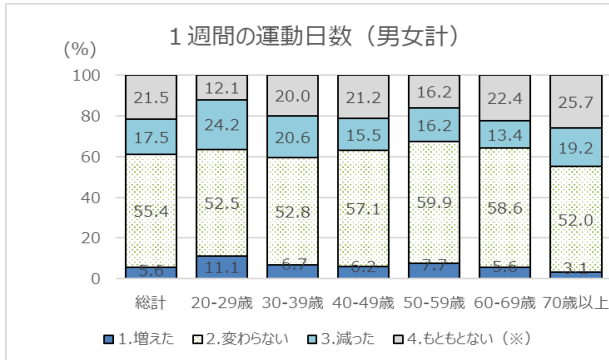


図10-⑨ 「1回当たりの運動時間」

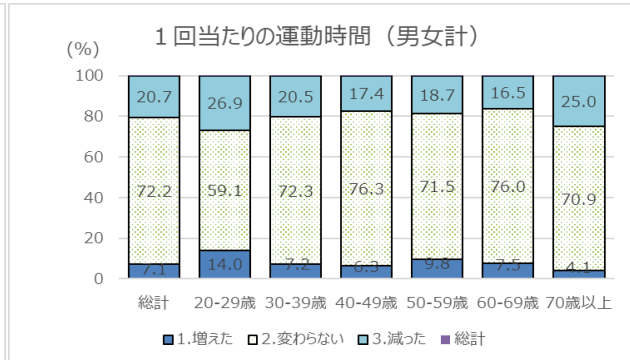


図10-⑩ 「喫煙の頻度」

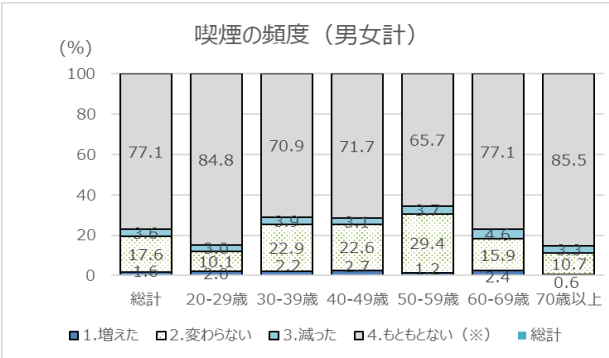


図10-⑩ 「1日当たりの睡眠時間」

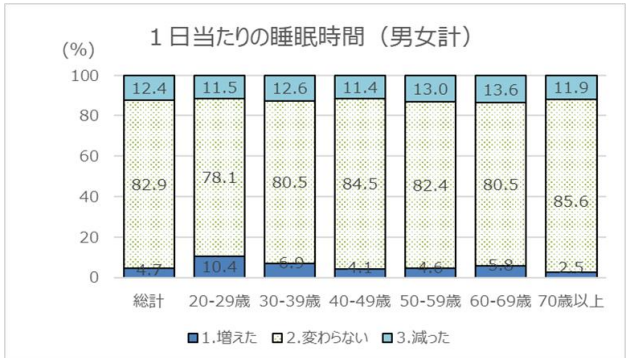


図10-⑫ 「趣味やボランティア活動の頻度」

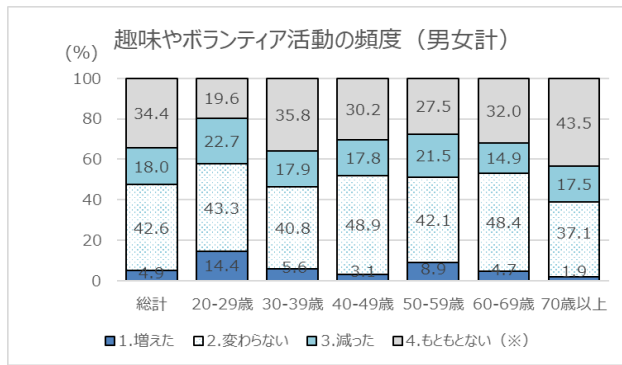


図10-⑬ 「体重」

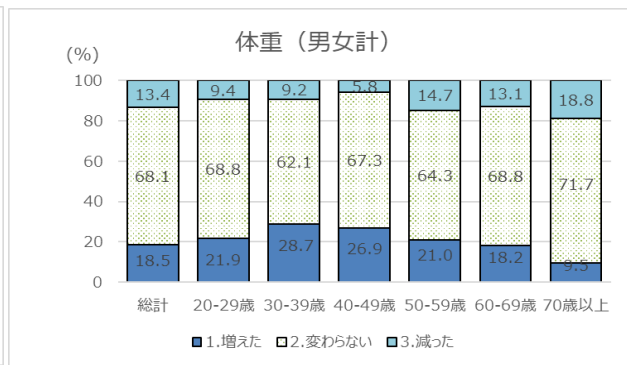
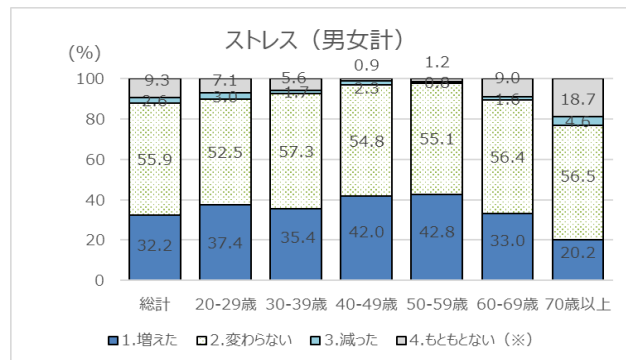
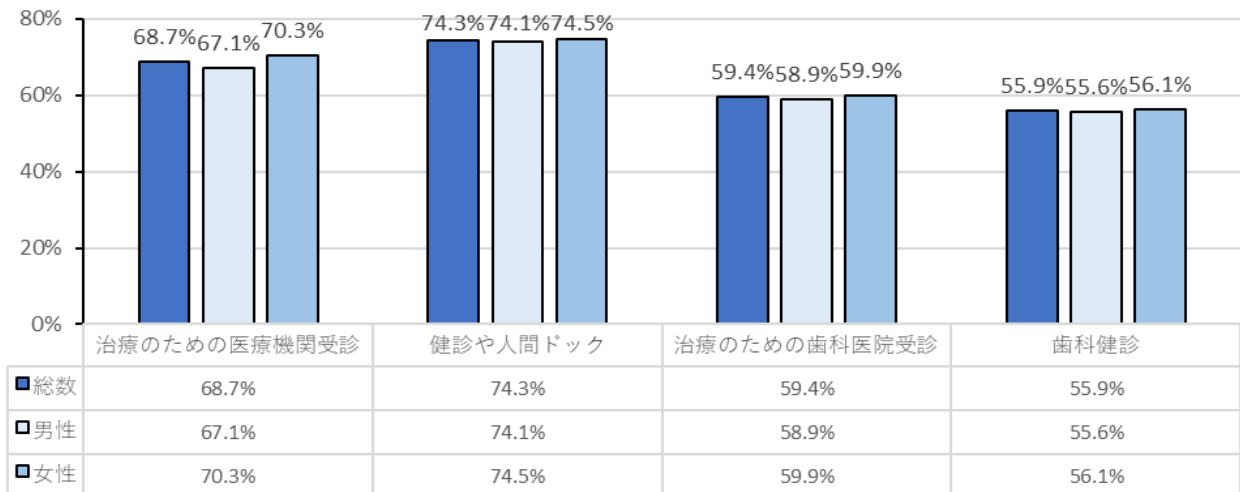


図10-⑭ 「ストレス」



(3) 新型コロナウイルス感染症拡大前と比較した医療受診の状況 (20歳以上)

図10-⑮ 「感染症流行前と変わらない」と回答した者の割合 (性別)



(4) 新型コロナウイルス感染症拡大前と比較した医療受診の状況（20歳以上）（項目別）

図10-⑯ 「治療のための医療機関受診」

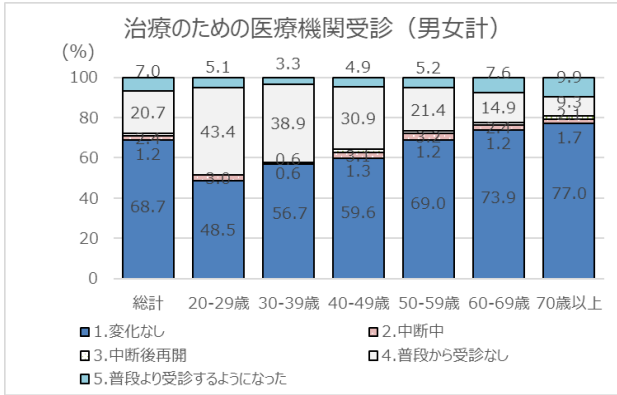


図10-⑰ 「健康診断や人間ドック」

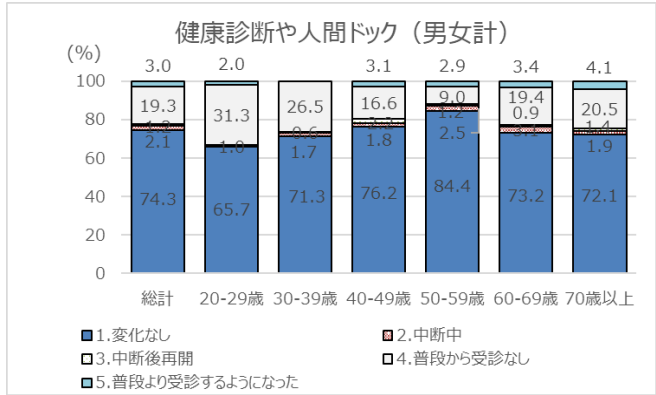


図10-⑱ 「治療のための歯科医療機関受診」

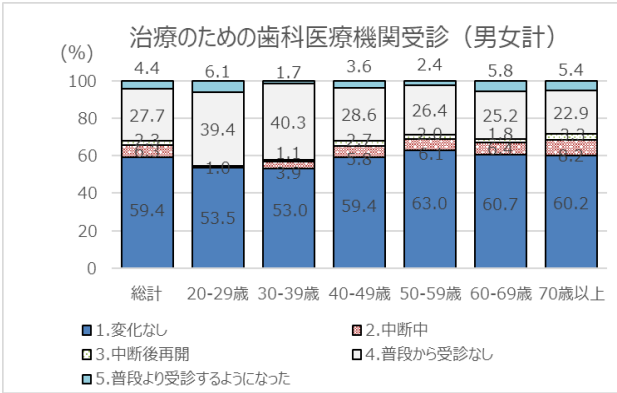
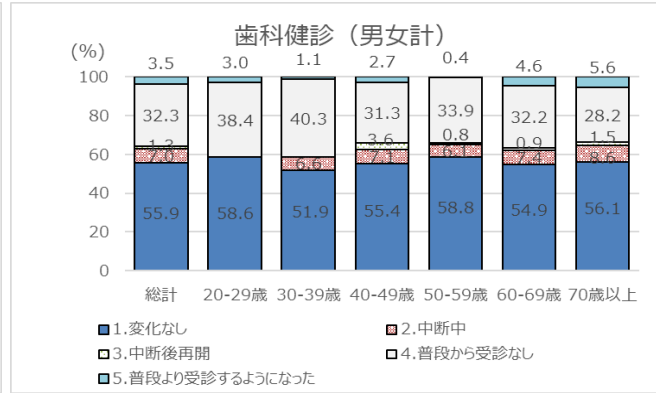


図10-⑲ 「歯科健診」



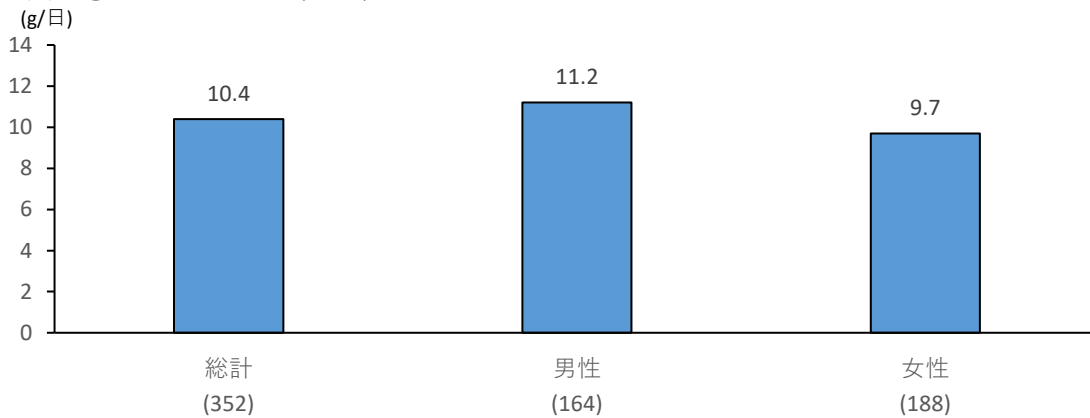
第2 栄養摂取状況調査の概要

1 食塩摂取量の状況

食塩摂取量の平均は10.4gであり、男性11.2g、女性9.7gであった。
年齢階級別にみると、男女とも60歳代の摂取が多く、男性は20、30歳代、
女性は20歳代が低い。

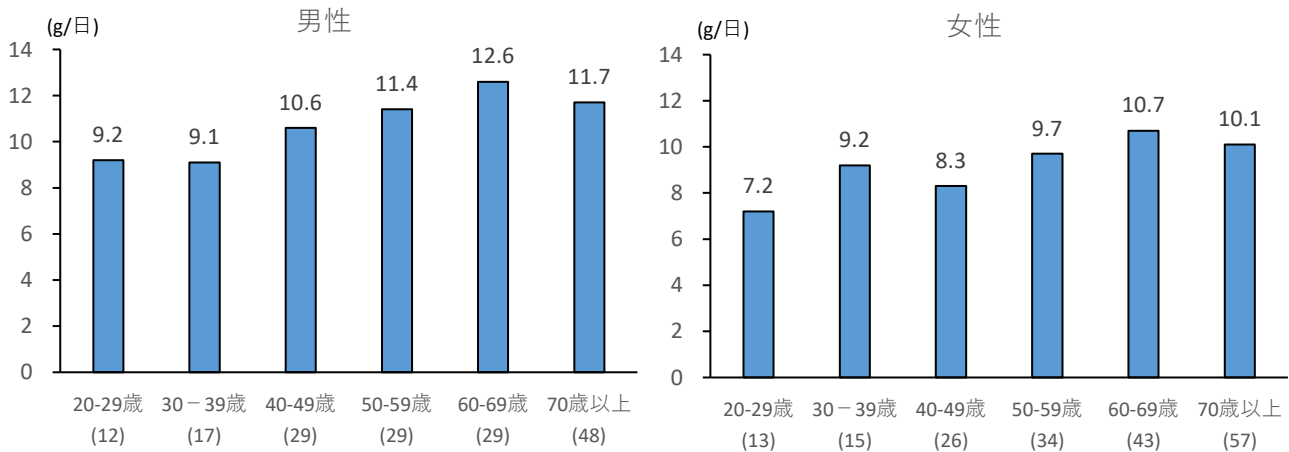
(1) 食塩摂取量の平均値（20歳以上）

図1-① 食塩摂取量（性別）



(2) 食塩摂取量の状況（性・年齢階級別）

図1-② 食塩摂取量（性・年齢階級別）



日本人の食事摂取基準（2020年版）の目標量

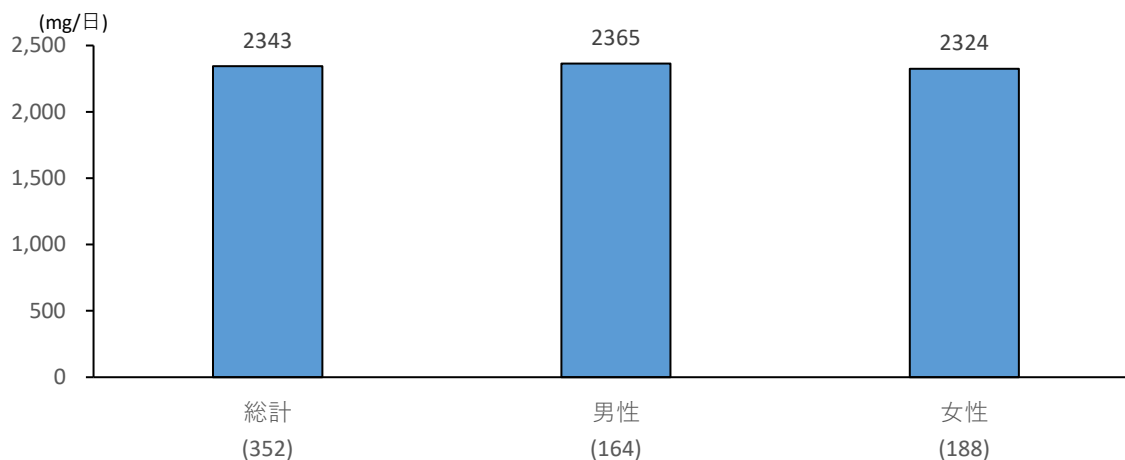
食塩相当量 成人男性7.5g未満、成人女性6.5g未満

2 カリウム摂取量の状況

カリウム摂取量の平均値は2343mgであり、男性2365mg。女性2324mgであった。
年齢階級別にみると、男女とも20歳代の摂取量が少ない。

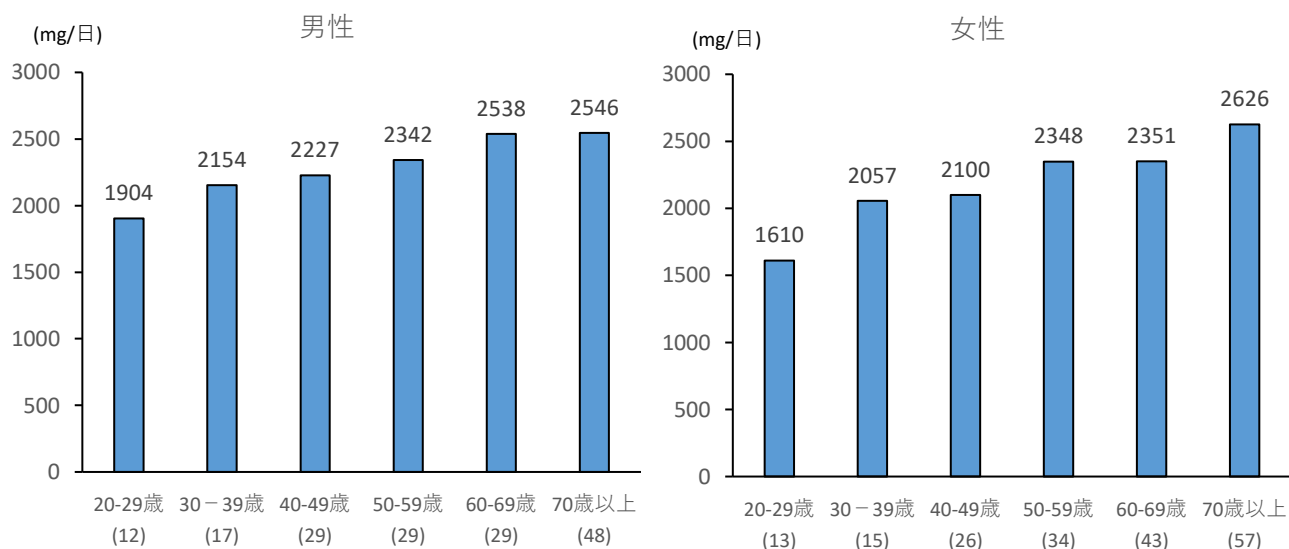
(1) カリウム摂取量の状況 (20歳以上)

図2-① カリウム摂取量 (性別)



(2) カリウム摂取量の平均値 (性・年齢階級別)

図2-② カリウム摂取量 (性・年齢階級別)

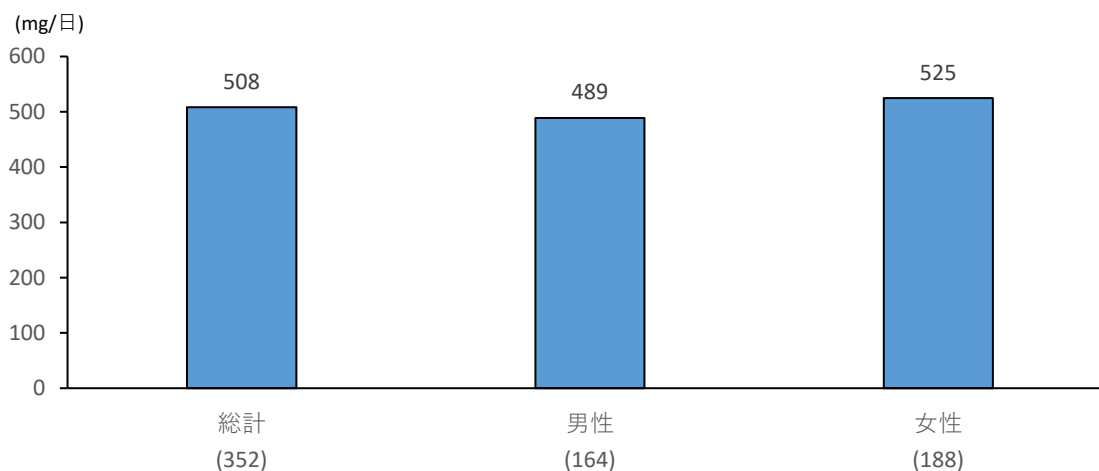


3 カルシウム摂取量の状況

カルシウム摂取量の平均値は508mgであり、男性489mg、女性525mgであった。
年齢階級別にみると、男女とも20歳代の摂取量が少ない。

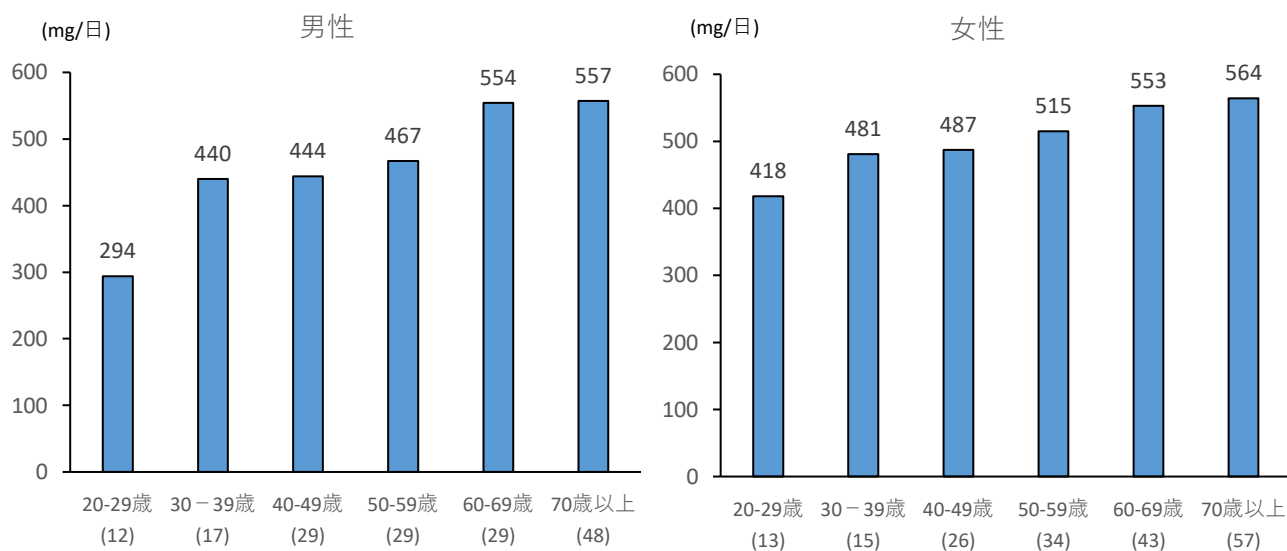
(1) カルシウム摂取量の状況（20歳以上）

図3-① カルシウム摂取量（性別）



(2) カルシウム摂取量の平均値（性・年齢階級別）

図3-② カルシウム摂取量（性・年齢階級別）

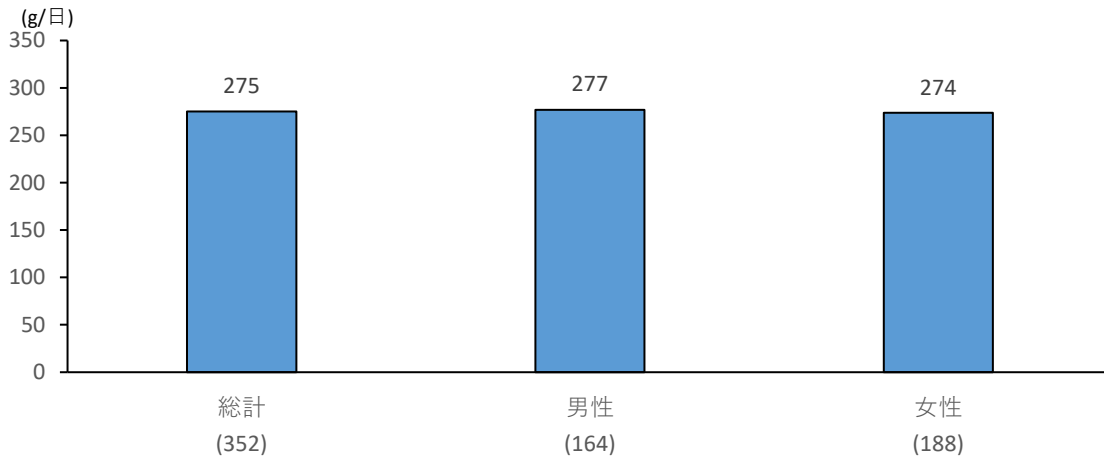


4 野菜摂取量の状況

野菜摂取量の平均値は275gであり、男性277g、女性274gであった。
 年齢階級別にみると、男性は20、30歳代の摂取量が少なく、女性は20歳代の摂取量が少ない。

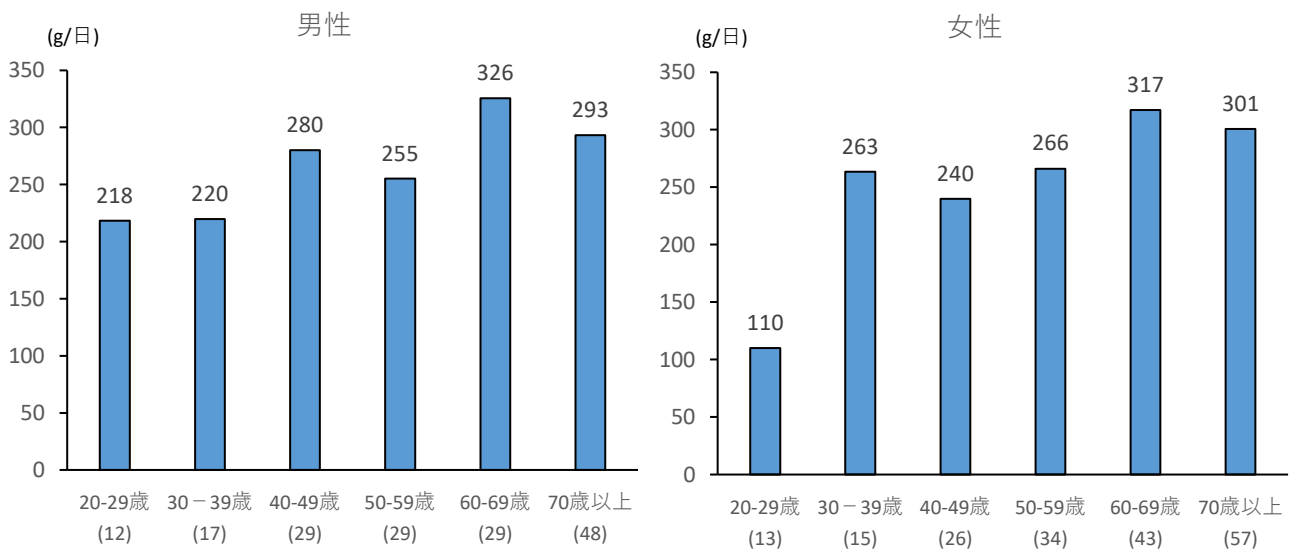
(1) 野菜摂取量の状況（20歳以上）

図4-① 野菜摂取量（性別）



(2) 野菜摂取量の平均値（性・年齢階級別）

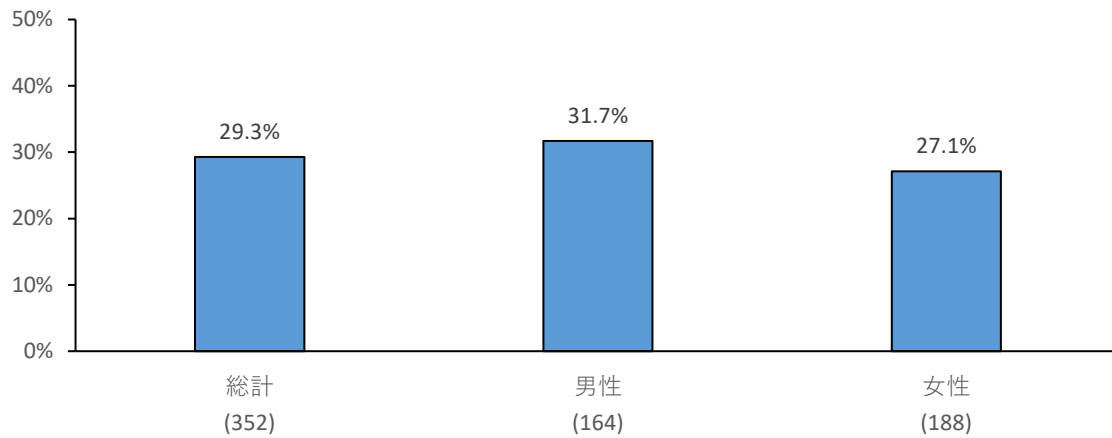
図4-② 野菜摂取量（性・年齢階級別）



野菜摂取量の平均が350g以上の人の割合は29.3%で、男性31.7%、女性27.1%であった。年齢階級別にみると、男性の30歳代、女性の20、50歳代で割合が低い。

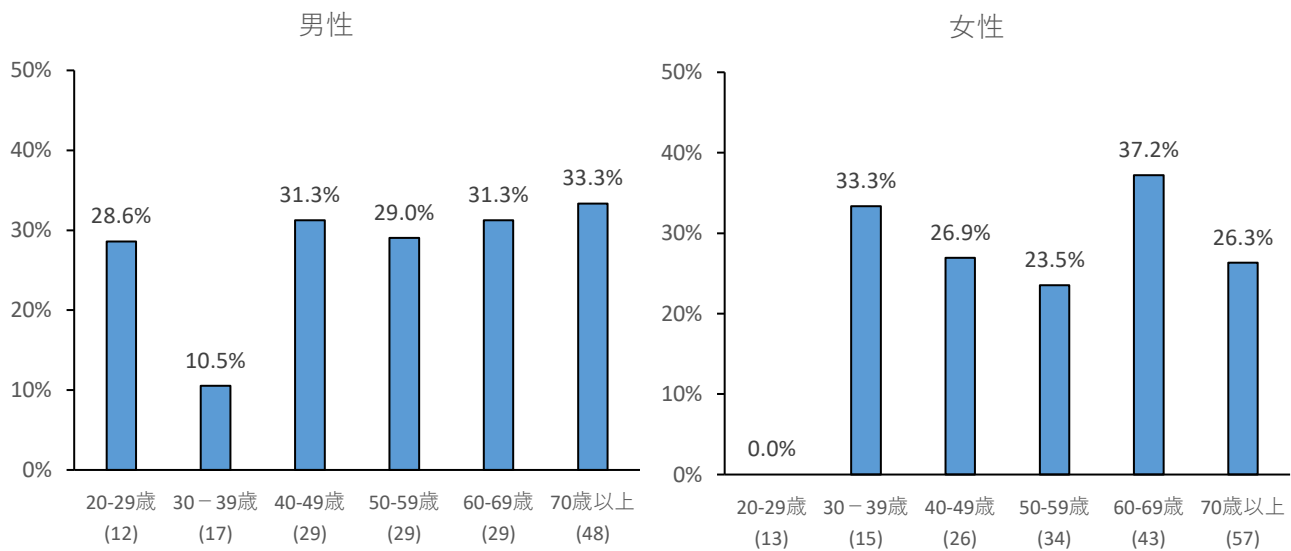
(3) 野菜摂取量が350g以上の人の状況（20歳以上）

図4-③ 野菜摂取量が350g以上の人の割合（性別）



(4) 野菜摂取量が350g以上の人の状況（性・年齢階級別）

図4-④ 野菜摂取量が350g以上の割合（性・年齢階級別）

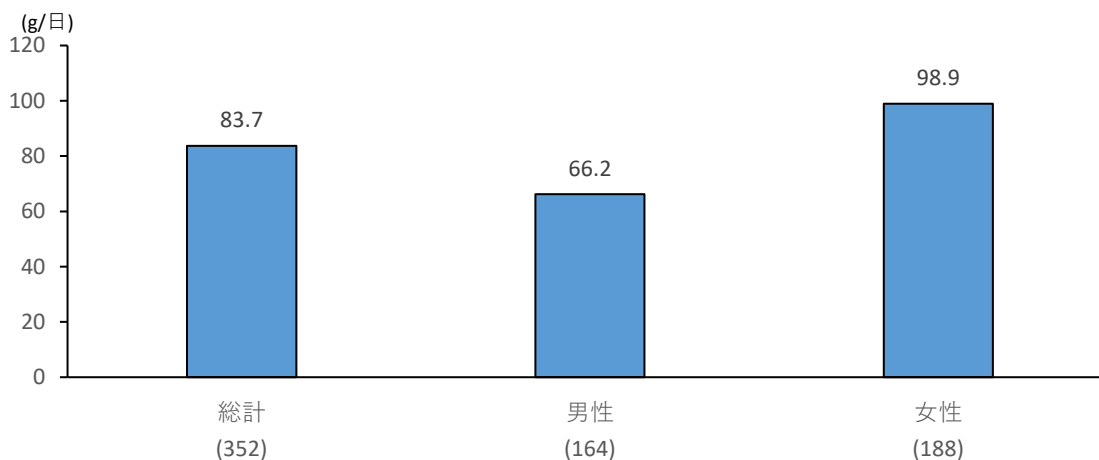


5 果物摂取量の状況

果物摂取量の平均値は83.7gであり、男性66.2g、女性98.9gであった。
年齢階級別にみると、男性は40歳代、女性は20歳代の摂取量が少ない。

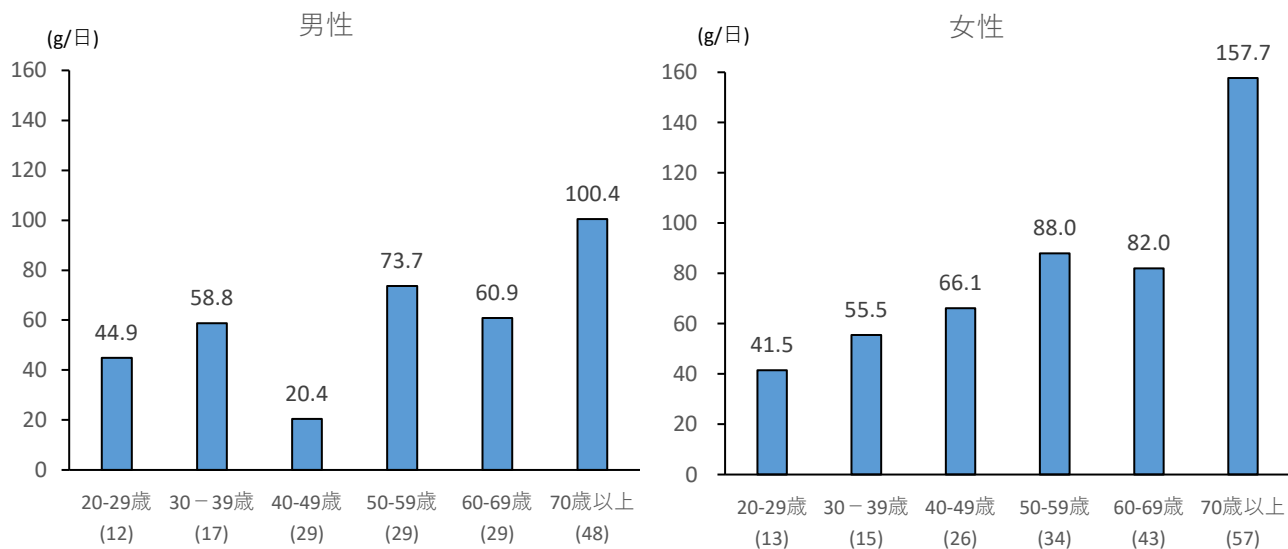
(1) 果物摂取量の状況（20歳以上）

図4-① 果物摂取量（性別）



(2) 果物摂取量の平均値（性・年齢階級別）

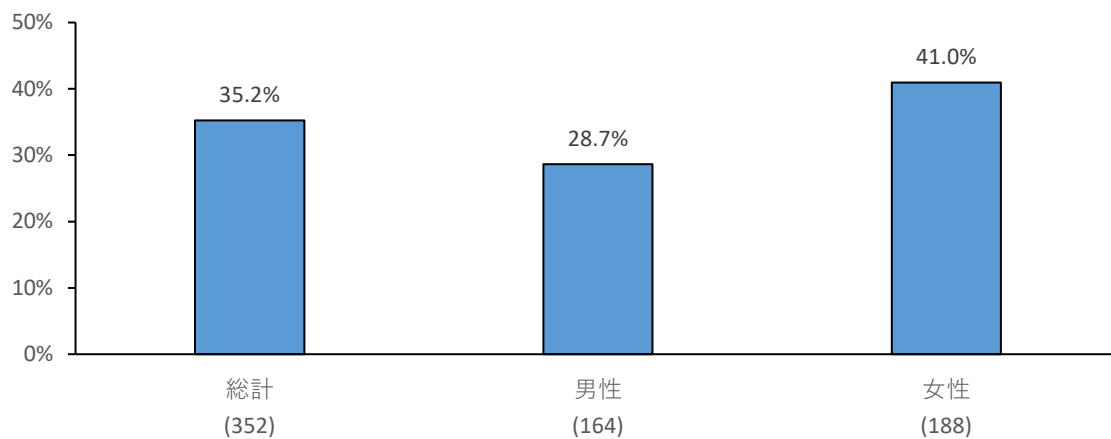
図4-② 果物摂取量（性・年齢階級別）



果物摂取量の平均が100g以上の人の割合は35.2%で、男性28.7%、女性41.0%であった。
年齢階級別にみると、男性の40歳代、女性の30歳代で割合が低い。

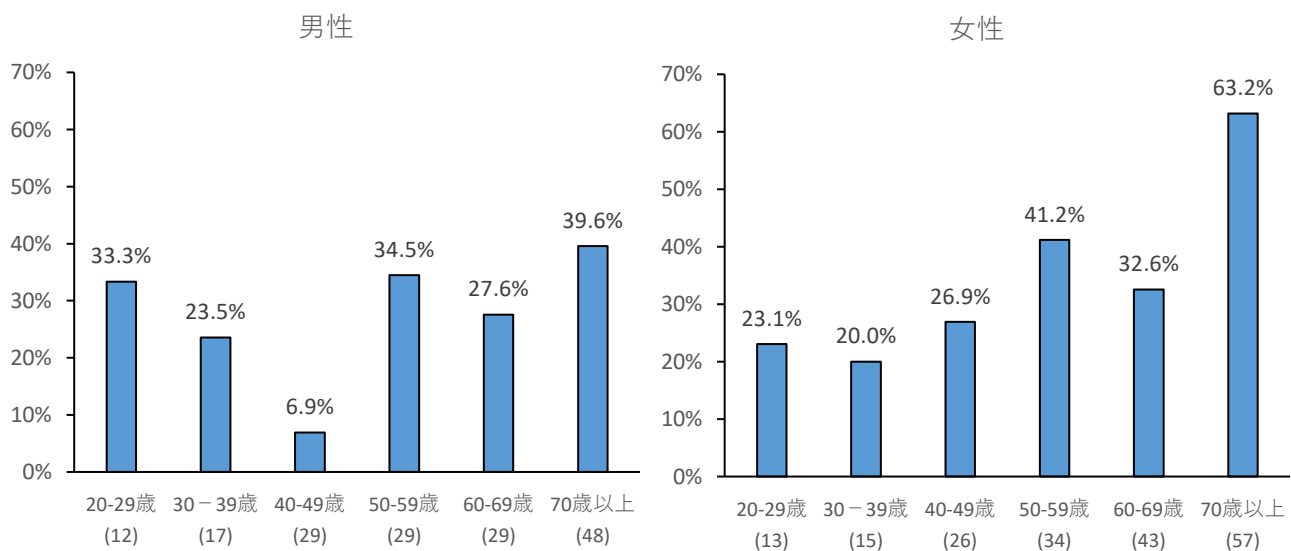
(3) 果物摂取量が100g以上の人の状況（20歳以上）

図4-③ 果物摂取量が100g以上の人の割合（性別）



(4) 果物摂取量が100g以上の人の状況（性・年齢階級別）

図4-④ 果物摂取量が100g以上の割合（性・年齢階級別）



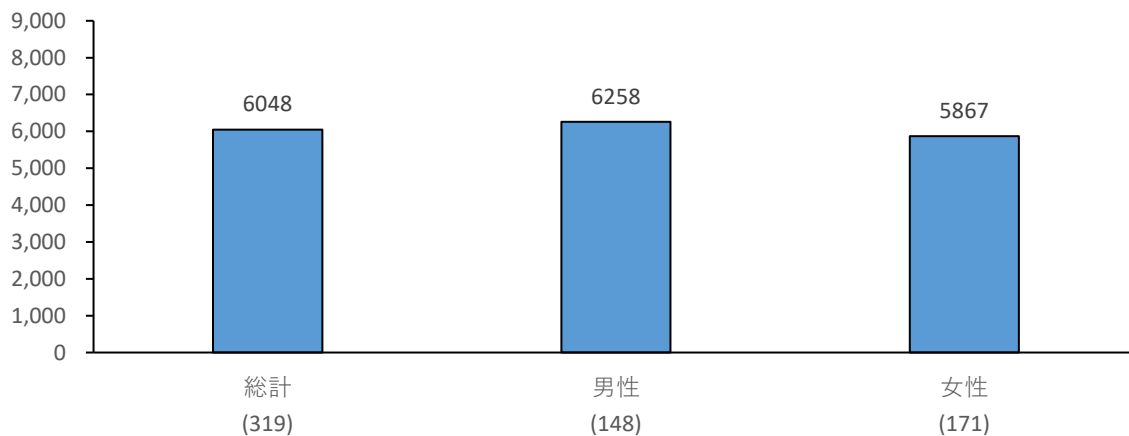
第3 歩行数調査の概要

1 歩行数の平均値

歩行数の平均値は6,048歩であり、男性6,258歩、女性5,867歩であった。

(1) 歩行数の平均値の状況（20歳以上）

図1-① 歩行数の平均（性別）



(2) 歩行数の平均値の状況（性・年齢階級別）

図1-② 歩行数の平均（性・年齢階級別）

